

日本気象学会 2006年度春季大会

会期：2006年5月21日（日）～24日（水）

会場：つくば国際会議場（エポカルつくば：茨城県つくば市竹園 2-20-3, <http://www.epochal.or.jp>）

大会実行委員会担当機関：気象研究所

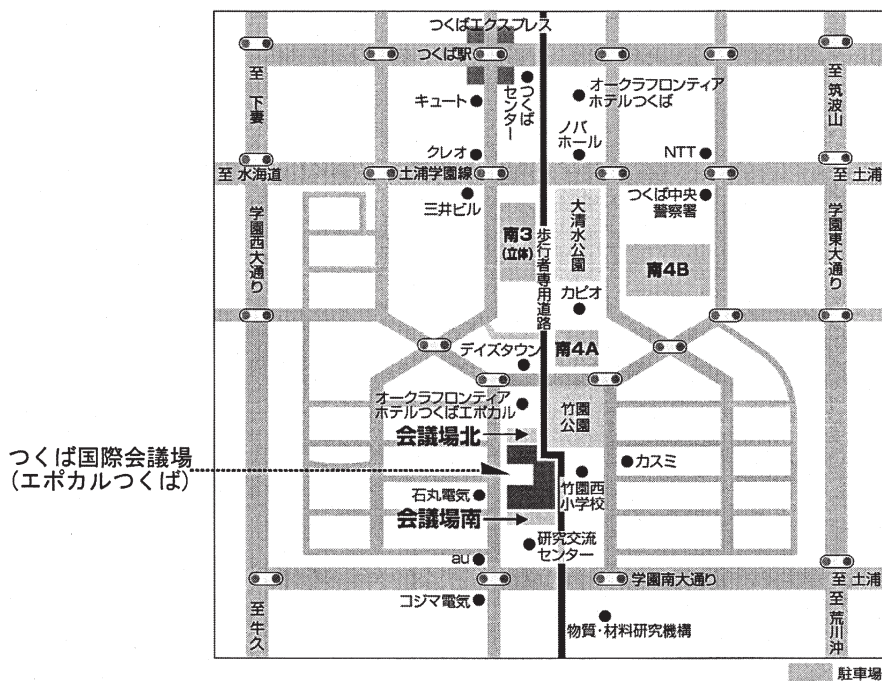
大会委員長：藤谷徳之助（気象研究所）

当日の会場への連絡先：大会実行委員会事務局（つくば国際会議場小会議室 301）

TEL・FAX 029-861-0611（直通）（学会開催期間のみ有効）

※大会参加者への伝言（FAXも含む）は、受付付近の掲示板に掲示します。
取り次ぎはいたしませんのでご承知おきます。

会場案内図



交通のご案内

●つくばセンター・つくば駅まで

・つくばエクスプレス（TX）：「つくば」行きに乗車し、終点「つくば駅」にて下車。

・JR常磐線：「ひたち野うしく駅」（東口）、「土浦駅」（西口2番のりば）の各駅より、「筑波大学中央」または「つくばセンター」行きに乗車し、「つくばセンター」にて下車（ともに所要時間約25分）。

・高速バス：東京駅八重洲南口高速バスのりばより「特急つくば号」→「つくばセンター」行きに乗車し、終点「つくばセンター」にて下車（所要時間約65分）。羽田空港第1及び第2の各ターミナル1階到着ロビー（13番のりば）より「つくばセンター」行きに乗車し、終点「つくばセンター」にて下車（所要時間約80分）。

●つくばセンター・つくば駅からつくば国際会議場まで

ペDESTリアンデッキ（歩行者専用道路）に登り、直進（徒歩約10分）。

大会行事予定

A会場 : 大会議室 101 (1F)
 B会場 : 大会議室 102 (1F)
 C会場 : 中会議室 201 (2F)
 D会場 : 中会議室 202 (2F)
 ポスター会場 : 多目的ホール (1F)

総会・記念講演・シンポジウム : 大ホール (1F)

企業展示会場 : 多目的ホール (1F)
 受付 : ロビー (1F)
 大会事務局 : 小会議室 301 (3F)
 懇親会 : 大会議室 101・102 (1F)

		A会場	B会場	C会場	D会場
5月21日 (日)	10:00～ 11:30	気候システムI (9, A101～A109)	物質循環I (9, B101～B109)	降水システムI (8, C101～C108) 気象教育 (1, C109)	環境気象 (9, D101～D109)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (59, P101～P159)			
	14:00～ 17:30	シンポジウム「異常気象に挑むー極端な降水現象の理解と予測を目指してー」			
5月22日 (月)	09:30～ 11:30	気候システムII (8, A201～A208)	物質循環II (11, B201～B211)	降水システムII (8, C201～C208)	観測手法 (6, D201～D206) 中高緯度大気 (2, D207～D208) 中層大気 (3, D209～D211)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (59, P201～P259)			
	13:30～ 17:00	専門分科会 (13, A251～A263) 「太平洋・インド洋域 における大気海洋結合 現象」	専門分科会 (8, B251～B258) 「アジアにおける広域 大気汚染とその環境影 響」	専門分科会 (7, C251～C257) 「種々の地表面上に発 達する大気境界層の観 測とモデリングに関す る研究の現状と将来展 望」	
5月23日 (火)	09:30～ 11:30	気候システムIII (12, A301～A312)	大気境界層 (12, B301～B312)	台風 (11, C301～C311)	気象予報 (9, D301～D309) 大気力学I (3, D310～D312)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (59, P301～P359)			
	14:00～ 15:20	総会			
	15:30～ 17:30	学会賞・藤原賞受賞記念講演			
	18:00～ 20:00	懇親会			
5月24日 (水)	09:30～ 11:30	気候システムIV (8, A401～A408) 大気放射 (1, A409)	相互作用 (8, B401～B408)	熱帯大気 (11, C401～C411)	大気力学II (12, D401～D412)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (59, P401～P459)			
	13:30～ 17:00	専門分科会 (15, A451～A465) 「雲・エアロゾルの新 しい地球環境監視シス テム」	専門分科会 (13, B451～B463) 「JRA-25 長期再解析 が切り開く新しい気候 研究」		

発表件数 : 453 件 (専門分科会 56, 口頭発表 161, ポスター 236)

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは、〒305-0052 茨城県つくば市長峰 1-1 気象研究所予報研究部内 講演企画委員会 (e-mail:msj06s@mri-jma.go.jp)まで。 ※これまでのメールアドレス (org-msj@mri-jma.go.jp) は廃止されましたのでご了承下さい。

講演の方法

専門分科会

- ・持ち時間は各分科会毎に決められています。詳細は各分科会のプログラムをご覧ください。

一般口頭発表

- ・持ち時間は 9分（講演7分・質疑2分）です。

ポスター発表

- ・概要紹介は行われません。
- ・講演者はポスターに表題と著者名を明記して下さい。
- ・ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、幅 1.0 m × 高さ 2.1 m となっています。
- ・ポスターの掲示にあたって**鋏**、ピンが使用できますが、糊、テープ等は使用できません。必要な鋏、ピンは各自で用意して下さい。
- ・ポスターの掲示可能時間は発表日の 09:30 - 16:30 となっています。会場の都合上時間厳守をお願いします。

機器の使用について

専門分科会・一般口頭発表

- ・PCプロジェクターとOHPが使用できます。
- ・止むを得ない事情で使用機器が講演申込時に予め届け出ていた機器と異なる場合は、セッション開始前までに座長と会場係にその旨を申し出て下さい。
- ・PCプロジェクターを使用する際は予め以下の点をご了承ください。
 - －パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクターおよび接続ケーブルのみを準備します。
 - －セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、セッション開始前に会場係に申し出て下さい。
 - －突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で、発表順を繰り下げたりOHPによる発表に切り替えさせて頂くことがあります。OHPシートなどを予め準備しておくなど、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようお願いいたします。

ポスター発表

- ・ポスター会場での機器の使用は講演申し込み時に申し出ていたもの以外は原則として認められません。

シンポジウム「異常気象に挑む－極端な降水現象の理解と予測を目指して－」

日時：大会第1日（5月21日）14:00～17:30

会場：つくば国際会議場 大ホール（1F）

司会：杉 正人（気象研究所）

※シンポジウムの聴講は無料です

趣旨

ここ数年来、我が国では、都市部を中心とした時間雨量100mmを超える短時間豪雨、台風・前線による大雨が各地で発生し、特に中小河川による洪水、土砂災害等により多大な被害がもたらされている。気象庁が平成17年10月に発表した「異常気象レポート」では、日本では最近大雨の頻度が増加していることが示されており、また、平成17年には、西日本における渇水が話題となった。従前には見られないような大雨が今後も頻発するのか、渇水の傾向はどうかなど、降水現象の動向に、社会的関心が高まっている。

今回のシンポジウムにおいては、このような降水現象に焦点を絞り、大雨の出現がどのように変わってきているのか、地球温暖化との関連はどうか、今後どのように変わるのか等の話題について最新の知見を紹介するとともに、大雨の予測技術の高度化への取り組み状況、今後の異常気象解明に向けた気象学的研究の展望と、降水に関する将来の水問題への対策の重要性について、理解の促進と議論を深める機会を提供する。

基調講演

降水現象の現状と変化傾向

- | | |
|---------------------------------|-------------|
| 1) 「最近の異常気象の特徴」 | 栗原弘一（気象庁） |
| 2) 「世界における最近の降水現象の特徴」 | 松本 淳（東京大学） |
| 3) 「領域モデルによる日本周辺での降水現象の将来の変化予測」 | 高藪 出（気象研究所） |

降水現象に関連した予報技術の現状と今後の発展

- | | |
|--------------------------|-------------|
| 4) 「降水現象の予報高度化の技術」 | 斉藤和雄（気象研究所） |
| 5) 「洪水・水資源管理のための技術発展の展望」 | 吉谷純一（土木研究所） |

今後の展望

- | | |
|------------------------------|------------|
| 6) 「今後の異常気象研究の展望」 | 木本昌秀（東京大学） |
| 7) 「今後の水問題への取り組み（科学技術政策面から）」 | 沖 大幹（内閣府） |

総合討論

総 会

日時:大会第3日(5月23日) 14:00～15:20
会場:つくば国際会議場 大ホール(1F)

議事次第:

- 1.開会の辞
- 2.議長選出
- 3.理事長挨拶
- 4.学会賞授与
- 5.藤原賞授与
- 6.2005年度事業報告

- 7.2005年度会計報告
- 8.2005年度監査報告
- 9.2006年度日本気象学会総会議案
- 10.2006年度事業計画案
- 11.2006年度予算案の審議
- 12.議長解任

専門分科会の概要紹介

2006年度春季大会では下記の通り,5件の専門分科会が開かれます。

太平洋・インド洋域における大気海洋結合現象

日時:大会第2日(5月22日) 13:30～17:00

場所:A会場

趣旨:太平洋・インド洋域では様々な時空間規模において大気と海洋の現象が結合して変動しており,それらの動向は我が国の天候予測にとっても重要である。その典型例としては ENSO が良く知られているが,最近発見されたインド洋のダイポール現象や太平洋の(数)十年規模変動なども注目を集めている。また,アジアモンスーン自体にも大規模な大気海洋結合現象として捉えられる側面がある他,黒潮とその続流域における大気海洋相互作用も注目されている。近年,人工衛星や現場観測によるデータの充実はこれら結合現象の振舞を詳細に明らかにしつつあり,また高解像度の大気・海洋(結合)モデルによる長期積分の解析は,結合現象のメカニズムの研究を今後一層加速させるものと期待される。そこで,本分科会では海洋物理の研究者にも呼び掛け,太平洋・インド洋域にて起こる様々な大気海洋結合現象に関する最新の知見を整理し,今後の研究の方向性を議論したい。

コンピーナー:中村 尚(東京大学/地球環境フロンティア研究センター),謝 尚平(ハワイ大学 IPRC)

アジアにおける広域大気汚染とその環境影響

日時:大会第2日(5月22日) 13:30～17:00

場所:B会場

趣旨:アジアでは,近年の急速な経済発展に伴って人為起源物質の発生量が著しく増大しており,その環境への影響が懸念されている。エアロゾルやオゾンなどの大気汚染物質は都市域など局所的には人間の健康に悪影響を与え,より広域に輸送されれば,気候(放射・降水)や農作物・植生への影響など多岐にわたって影響を及ぼす。これらの環境問題への取り組みは,UNEP-ABCなどの国際的な共同研究へ発展しつつある。日本気象学会の地球環境問題委員会主催で,この学際的な環境研究分野における近年の知見や今後の研究の方向性について紹介する。招待講演および関連する議論を通じて,会員を含め多くの人々が,この問題に対する理解を深めることが趣旨である。

主催:日本気象学会 地球環境問題委員会

コンピーナー:近藤 豊(東京大学先端科学技術研究センター),中島映至(東京大学気候システム研究センター),笹野泰弘(国立環境研究所)

種々の地表面上に発達する大気境界層の観測とモデリングに関する研究の現状と将来展望

日時:大会第2日(5月22日) 13:30～17:00

場所:C会場

趣旨:ここ数年,大型予算を伴う研究プロジェクト等により,種々の地表面上に成立する大気境界層の観測的研究や数値モデリングを併用した研究が,国内外で活発に行われています。これらの研究は,接地境界層内の乱流変動量や地表面フラックスの空間分布に関する観測的研究や,ウィンドプロファイラーを用いた大気境界層～対流圏中層の風の場に関する観測的研究,そして,LES(Large Eddy Simulation)に代表される大気乱流に関する数値計算など,多岐にわたります。そこで,大気境界層に関する最新の観測事例や数値計算の成果について情報交換を行うことを目的に,標題の専門分科会を企画しました。

コンピーナー:楡山哲哉(名古屋大学地球水循環研究センター),浅沼 順(筑波大学陸域環境研究センター),神田 学(東京工業大学大学院理工学研究科)

雲・エアロゾルの新しい地球環境監視システム

日時：大会第4日(5月24日) 13:30～17:00

場所：A会場

趣旨：近年、雲とエアロゾルが及ぼす気候影響が、地球温暖化予測モデルの結果を左右する大きな不確定要因として注目されている。その検証のために、全球の雲・エアロゾルの動態を測定できるミリ波レーダやライダーを搭載した衛星開発が進められている。NASAが2006年打ち上げ予定のCloudSat, Calipsoもその一つで、A-Train軌道と呼ばれる同一軌道を続けて通過する二つの衛星にミリ波レーダとライダーを搭載して雲観測を行う。一方、わが国も欧州宇宙機構と共同でEarthCARE衛星を提案しており、2005年から本格的な衛星設計に移行した。この衛星は、ミリ波レーダとライダーと一緒に搭載し、雲とエアロゾルに関する微物理量の詳細観測を目指している。また、対応して、ライダー、スカイラジオメーター、雲レーダー等の全自動地上ネットワークであるLidar Net, AERONET, SKYNETなどが構築されつつある。本専門分科会では、このような衛星計画を紹介すると共に、気候モデルから地上・航空機観測まで雲・エアロゾルに関連する様々な研究者からも発表をいただき、今後の計画に対して活発な意見交換が行われることを期待している。

コンピーナー：大野裕一（情報通信研究機構）、木村俊義（宇宙航空研究開発機構）、中島映至（東京大学気候システム研究センター）

JRA-25 長期再解析が切り開く新しい気候研究

日時：大会第4日(5月24日) 13:30～17:00

場所：B会場

趣旨：長期再解析は、最新のデータ同化システムを使用して過去数十年間にわたる均質で高精度の格子点データセットを作成し、気候研究の基礎資料とすることを目的に実施される。日本で最初の長期再解析 JRA-25 は、気象庁と電力中央研究所が共同で実施中で、2006年3月末には完成予定である。また気象庁はこれと同一システムの準リアルタイム気候データ同化サイクルの運用を予定している。1979年～2004年の26年間のデータが揃うのを受け、JRA-25の特性の一貫した評価、海外の再解析データとの比較を通して、JRA-25が切り開く新しい研究の可能性について議論したい。JRA-25は降水量や台風の表現等が他の再解析より優れており、様々な研究用途において強力な基礎資料になることを期待している。本分科会の発表で得られた知見を元に、JRA-25をどのような研究に適用出来るか、また、今後どのような再解析プロダクトが必要になってくるかについて、今後の研究推進のための議論の場としたい。

コンピーナー：釜堀弘隆（気象研究所）、大野木和敏（気象庁気候情報課）、筒井純一（電力中央研究所）

研究会のお知らせ

大会期間中に以下の研究会が予定されています。興味のある方はご自由にご参加下さい。

第26回メソ気象研究会

日時：2006年5月20日(土) (大会前日) 13:30～17:00

場所：気象庁講堂(東京都千代田区大手町1-3-4)

テーマ：「21世紀の境界層研究の役割と課題—その変遷のなかで—」

コンピーナー：中西幹郎（防衛大学校）

内容：近年の気象学の研究は、主に社会の要請から、温暖化などの地球環境に関わる研究や、降雨予測などの防災に関わる研究に集中する傾向にあるようです。しかし、温暖化の原因となる温室効果ガスは地表面付近に排出源を持ち、大気境界層の交換過程を通して自由大気、地球全体に輸送されます。また、降雨のもととなる水蒸気は大気境界層を介して水平・鉛直方向に輸送され、凝結・併合を繰り返して雲・降水に変化していきます。このように、境界層内の素過程は気象学のさまざまな分野の理解に不可欠です。その境界層自身の研究はというと、水平一様な地表面上の研究はほぼ確立されたものの、非一様な複雑地形、3次元構造をした都市などの境界層の研究はまだ多くの未解決の問題を抱えています。この解決なくして、地球規模の物質輸送、複雑地形やヒートアイランドの豪雨への関与も解明できません。境界層は、人間活動の場であるために、工学、農学、社会科学などとも関連する学際的色彩の強い対象です。5名の先生方に、これまでの境界層研究を振り返り、最新の話題を提供していただくこの機会に、多方面でご活躍の研究者の方々とともに今後の境界層研究の役割と課題を議論したいと思います。なお、講演要旨を<http://www.nda.ac.jp/~naka/meso.html>に掲載してありますので是非ご覧ください。

プログラム：

趣旨説明 中西幹郎（防衛大学校）

講演（各講演は質疑・討論を含め35分）

- | | |
|-------------------------------------|----------------------|
| 「これまでの境界層研究—私の研究を中心にして、そして温暖化問題—」 | 近藤純正（東北大学名誉教授） |
| 「都市境界層—都市気候の予測と解析に向けたモデリング—」 | 日下博幸（電力中央研究所流体科学領域） |
| 「建物周りの境界層—気象モデルと流体力学モデルの結合—」 | 山田哲司（米国 YSA 社） |
| 「大気境界層—雲・降水過程における重要性—」 | 木村富士男（筑波大学生命環境科学研究所） |
| 「これからの境界層研究—社会的要請に基づく研究の総合化（本格研究）—」 | 近藤裕昭（産業技術総合研究所） |

総合討論

世話人：坪木和久(名古屋大学地球水循環研究センター)、加藤輝之(気象研究所)、小倉義光(東京大学海洋研所)
連絡先：中西幹郎(防衛大学校) E-mail: naka@nda.ac.jp

気象庁数値モデル研究会

日時：2006年5月20日(土)(大会前日) 17:30～19:30 (「メソ気象研究会」終了後。メソ気象研究会の終了時刻によっては、開始が遅れる場合がありますので、あらかじめご了承ください。)

場所：気象庁講堂(東京都千代田区大手町1-3-4)

話題：「高分解能メソモデルの可能性と今後の課題」

参加費：無料

趣旨：気象庁では、気象学の分野で用いられているさまざまな数値モデルに関する情報交換の場として、平成17年度から「気象庁数値モデル研究会」を開催しています。今年度は、気象庁講堂にて、気象学会のメソ気象研究会に引き続いて行います。今回は上のおりメソモデルを話題として取り上げる予定です。モデル開発やモデルを用いた研究に興味のある方々の参加をお待ちしています。講演内容等のプログラムについては、後日、数値予報研究開発プラットフォームのホームページ (<http://pf.kishou.go.jp>) にてお知らせいたします。なお、研究会では気象庁非静力学モデルの実行環境を容易に構築できるシステムについても紹介する予定です。

問い合わせ先：気象庁総務部企画課 横山辰夫 (気象庁モデル技術開発推進本部事務局)
TEL: 03-3212-8341 (内線 2227) , E-mail: yokoyama-t@met.kishou.go.jp

第3回地球観測衛星研究連絡会

日時：2006年5月22日(月)(大会第2日) 17:30～20:00

場所：つくば国際会議場 小会議室 401

テーマ：「降水計測」

内容：防災、水利用など様々な分野で降水量を把握することが不可欠である。しかし、降水の計測や時空間分布の推定は、観測方法や利用目的毎に困難な問題を含む。衛星を使った降水のリモートセンシング研究はTRMMによって進展した。現在このようなデータの実利用を目指した、GPMが計画されている。本研究会は、降水計測をキーワードとして、GPM時代に向けて、実際にこのテーマを研究している様々な分野の研究者間で情報交換し、降水リモートセンシングデータの利用可能性を検討することを主な目的とする。

講演者及びタイトル(予定)：

- 1) 「CREST/GSMaPにおける降水リトリバルとGPM計画」
高橋暢宏(情報通信研究機構)・沖 理子(宇宙航空研究開発機構)
- 2) 「雨量計による陸域の降水直接観測データの解析-衛星降水データとの比較-」
谷田貝亜紀代(総合地球環境学研究所)
- 3) 「洪水予警報への衛星降水データの実利用可能性」
深見和彦(土木研究所)

世話人：中島 孝(東海大学)、日暮明子(国立環境研究所)、高橋暢宏(情報通信研究機構)、塩谷雅人(京大生圏研究所)、早坂忠裕(総合地球環境学研究所)

連絡先：高橋暢宏(情報通信研究機構)
TEL: 042-327-6179, FAX: 042-327-6666, E-mail: ntaka@nict.go.jp

オゾン研究連絡会

日時：2006年5月22日(月)(大会第2日)セッション終了後から2時間以内

場所：つくば国際会議場 小会議室 402

内容：今回は「雲と微量成分の相互作用」と題し、微量成分の研究を行う上でしばしば問題となる雲形成、雲と微量成分やエアロゾルとの関係などについて、基本的な理論を含め少し時間をかけてお話を伺う企画です。関心をお持ちの方は是非お集まり下さい。

1. 雲物理の基礎理論・モデルにおける雲物理過程の取り扱い
発表者：中村晃三(地球環境フロンティア研究センター)
2. 雲とエアロゾルの観測
発表予定者：岡本 創(東北大学大学院理学研究科)

世話人：笠井康子(情報通信研究機構)、川上修司、河本 望(宇宙航空研究開発機構)、永島達也(国立環境研究所)、庭野将徳(地球環境フロンティア研究センター)、村田 功(東北大学大学院環境科学研究科)

連絡先：村田 功(東北大学大学院環境科学研究科)
TEL: 022-795-5776, FAX: 022-795-5775, E-mail: murata@pat.geophys.tohoku.ac.jp

極域・寒冷域研究連絡会

日時：2006年5月22日(月) (大会第2日) 17:15～2時間程度

場所：つくば国際会議場 小会議室 303

話題：2005/2006年冬の寒さと大雪を考える

内容：

1. 2005/2006年冬の寒さについての気候学的側面

「今冬の大雪：降雪の特徴と積雪地域からの報告」 中井専人 (防災科学技術研究所)

「05/06年冬の大雪異常と史上最少の海水量」 立花義裕 (地球環境観測研究センター/東海大学)

2. 2005/2006年冬の寒さについての自由討論会

今回の極域・寒冷域研究連絡会は、「2005/2006年冬の寒さと大雪を考える」と題しての講演会及び自由討論会を行います。2005/2006年の冬は、12月を中心に非常に寒く、日本海側を中心に大雪にも見舞われました。この顕著な寒冷現象に関わる話題を、様々な研究者の方々に提供して頂き、議論を深めたいと思います。まず、前半では2名の方に、大雪について現場の研究者からの報告、及び、オホーツクの海氷やユーラシアの積雪の状況等について話題提供をして頂きます。後半は自由討論の形式をとり、様々な分野の研究者に5分程度で大気循環やSSTなど関連する話題を幅広く紹介して頂きながら、議論及び討論を行います。自由討論は1時間程度を予定しています。当日、飛び入りでの話題提供も歓迎いたしますので、たくさんの方のご参加をお待ちしています。様々な分野の研究者による活発な議論を通じて、今冬の顕著な寒冷現象の特徴を理解し、さらに大気循環や気候変動の全般的な理解を深める機会にしたいと考えています。

代表：山崎孝治 (北海道大学地球環境科学研究院)

世話人：平沢尚彦 (国立極地研究所)、中村 尚 (東京大学理学系研究科)、浮田甚郎 (コロンビア大)、高田久美子 (地球環境フロンティア研究センター)、阿部彩子 (東京大学気候システム研究センター)、佐藤 薫 (東京大学理学系研究科)、本田明治 (地球環境フロンティア研究センター)、齋藤冬樹 (地球環境フロンティア研究センター)、猪上 淳 (地球環境観測研究センター)、高谷康太郎 (地球環境フロンティア研究センター)

問い合わせ先：高谷康太郎 (地球環境フロンティア研究センター)

TEL: 045-778-5526, FAX: 045-778-5707, E-mail: takaya@jamstec.go.jp

保育施設斡旋について

大会に参加される会員のため、大会実行委員会では保育施設の斡旋を行います。保育施設利用料の一部補助についても検討中です。利用を希望される方、あるいは情報提供を希望される方は、4月21日(金)までに下記の担当者までご連絡下さい。

連絡先：高橋清利 (気象研究所気候研究部)

E-mail: ktakahas@mri-jma.go.jp; TEL: 029-853-8670; FAX: 029-855-2683

大会参加・講演申込方法についてのご意見をお寄せ下さい

今大会よりオンラインでの講演申込み受付が開始されるなど、大会参加・講演申込方法が大幅に変更となりました。これについて皆様からのご意見を、講演企画委員会 (E-mail: msj06s@mri-jma.go.jp) までお寄せ下さい。なお、頂いたご意見につきましては、講演企画委員会において今後の大会運営の参考とさせて頂きたいと考えていますが、個別にご返事を差し上げることはいたしませんのでどうかご了承下さい。

秋季大会の予告

2006年度秋季大会は、2006年10月25日(水)～27日(金)にウィルあいち(名古屋市)で開催される予定です。

大会第1日〔5月21日〕10:00～11:30 一般口頭発表

()は講演者を表す)

A 会場

B 会場

気候システム I

物質循環 I

座長：西森基貴（農環研）

座長：町田敏暢（環境研）

- A101 谷貝勇・中村寛(気象大) 地球温暖化の影響を受けた台風と前線による災害の変質について
- A102 中澤哲夫(気象研)・Kavirajan Rajendran (科学技術振興事業団) 台風の日本上陸と北西太平洋での環境場の長期変動
- A103 藤部文昭・山崎信雄(気象研)他2名 日本における著しい高温・低温の経年変動
- A104 久保池大輔・中三川浩(気象庁気候情報) 104年間の日降水量データを用いたいくつかの手法による確率降水量の算出
- A105 藤部文昭(気象研) 本州～九州の梅雨入りに先立つ5月末ごろの少雨期
- A106 羽賀泰之・加藤内蔵進(岡山大教育)他1名 梅雨期の九州における降水の日変化と梅雨前線周辺域の大気場について
- A107 山本奈美(東大院新領域・院生)・松本淳(東大院理)他1名 関東地方における夏季対流性降雨の降雨強度の経年変化
- A108 盛宣誠・加藤内蔵進(岡山大教育)他1名 盛夏期から秋雨期への季節進行における日本付近の降水特性と大規模場の特徴
- A109 加藤内蔵進・中山祐貴(岡山大教育) 秋雨期における東アジア前線帯への南風侵入過程について(変動の特徴)

- B101 梅澤拓・青木周司(東北大院理)他3名 日本上空の成層圏におけるCH₄の同位体比観測とCH₄消滅過程
- B102 町田敏暢(環境研)・松枝秀和(気象研)他7名 定期航空機を利用した大気中温室効果気体の観測プロジェクト
- B103 小田知宏・町村尚(阪大院工) 大気CO₂濃度を用いた地域スケール二酸化炭素ソース・シンク推定法の開発
- B104 風岡亮・木田秀次(京大院理) 冬季の日本付近に到達する空気塊移動の気候学的特徴
- B105 千葉長・五十嵐康人(気象研)他4名 降水時の高ガンマ線量率事象の季節変化と地域特性
- B106 新添多聞(京大防災研) 3次元化学輸送モデルを用いた硫酸、アンモニア、硝酸濃度の感度実験
- B107 直江寛明(気象研)他3名 対流圏硫酸塩エアロゾルモデルの開発
- B108 秋吉英治・吉識宗佳(環境研)他6名 CCSR/NIES化学気候モデルを用いたオゾン層の将来予測実験
- B109 出生真・柴田清孝(気象研) 化学気候モデルバリデーション(CCMVal)シナリオに基づいたオゾン層の再現および将来予測実験のトレンドを含む長期変動の解析

大会第1日〔5月21日〕10:00～11:30 一般口頭発表

()は講演者を表す)

C 会場

D 会場

降水システム I

環境気象

座長：茂木耕作 (IORGC)

座長：菅野洋光 (東北農業研究センター)

- C101 山田広幸・耿驪(IORGC)他2名 長江下流域の山の風下で発生した梅雨前線小低気圧の数値実験
- C102 茂木耕作(IORGC)・篠田太郎(名大地球水循環)他6名 2004年6月27日に東シナ海上で観測された三本の前線の構造とその前線に伴う雲域の移動
- C103 zhang_chengzhong (名大地球水循環)他 Possible mechanism for prevalence of midlevel convections to south of the Meiyu front
- C104 山岬正紀(FRCGC) 梅雨前線に伴う降雨(2004年7月 新潟・福島豪雨)に関する研究
- C105 益田精治・竹見哲也(東工大院総理工)他1名 2004年7月新潟・福島豪雨時の降水セルの構造と組織化
- C106 用具敏郎(鹿児島地方気象台) 中層に乾燥空気が貫入することに伴い降水強化された梅雨前線 - 2005年6月23日、鹿児島県川辺町で発生した猛烈な雨の事例 -
- C107 坂本圭・高橋正明(東大気候システム) 夏季北太平洋における対流雲を伴う上層寒冷低気圧と伴わない上層寒冷低気圧の存在頻度とその構造
- C108 加藤輝之(気象研)・中島幸久(気象衛星センター) 2004年8月7日に東日本に熱雷をもたらした上層高渦位(寒冷)渦について - 夏期に熱雷をもたらす要因の統計的研究を踏まえて -

- D101 菅野洋光・川方俊和(東北農研センター)他9名 気象予測データを用いた水稲危険期予測情報
- D102 中里真久・永井智広(気象研)他2名 対流圏オゾンライダーで観測されたつくばにおける夏季の境界層内高濃度オゾンの解析
- D103 大橋唯太(岡山理大総合情報)・深尾一仁(岐阜大院工) 熱中症指標 WBGT 値の地域性とメソ気象モデルによるその再現性 - 近畿地方を対象として -
- D104 山本桂香(NISTEP) 都市におけるヒートアイランドの緩和対策
- D105 伊藤和貴(名大理)・甲斐憲次(名大院環境) 濃尾平野における大気汚染物質の動態および風系との関係
- D106 常松展充(JST)・永井智広(気象研)他2名 大規模海風の反流の影響を受けた 浅間山から首都圏への火山灰輸送
- D107 常松展充(JST)・永井智広(気象研)他1名 黄砂層と大気境界層の間に形成された強い逆転層とそれによる首都圏の大気環境への影響について
- D108 芝定孝(阪大院基礎工)・八木俊策(摂南大工) 自己CCNの同化による新しく誕生した雲粒の先天的汚染
- D109 近藤文義・塚本修(岡山大自然) 渦相関法による海面CO₂フラックスを評価する上でのWebb補正の影響

気象教育

座長：茂木耕作 (IORGC)

- C109 坪田幸政(桜美林大) 教養教育としての気象関連科目の指導とその演習

大会第1日〔5月21日〕11:30～12:30 ポスターセッション

()は講演者を表す)

- P101 萩谷聡・和田晃(気象大)他2名 北西太平洋上における大気中二酸化炭素濃度の不連続とその要因
- P102 上田紗也子・三浦和彦(東京理科大) 都市大気エアロゾル粒子の湿度特性の季節変化
- P103 沈麗麗・森島済(江戸川大)他2名 日本における降水の化学成分沈着量の地域的特徴
- P104 目黒亜衣・三浦和彦(東京理科大)他1名 富士山麓で捕集した個別エアロゾル粒子の化学的性状
- P105 財前祐二・千葉長(気象研) ピン法による硫酸エアロゾル粒子を凝結核とした雲生成シミュレーション
- P106 杉本朋世・長浜智生(名大STE研)他9名 南米チリに設置したミリ波分光計によるH₂¹⁸Oの高度分布の連続観測
- P107 仲田季寧・北和之(茨城大理)他3名 航空機リモートセンサ Airborne-OPUSによる紫外後方散乱スペクトルからのオゾンカラム量導出及び誤差要因の検討
- P108 青梨和正(気象研)・高橋暢宏(NICT) 日本海での冬期降水のマイクロ波特性の物理的検証
- P109 橋川寛(大阪府大院工/JST)他4名 GSMaP プロジェクトにおけるSSM/I用降雨強度推定アルゴリズムの開発～偏光度を用いた海上降雨強度推定の改良～
- P110 西秀紘・三田昭吉(気象大) 静止気象衛星データを用いた地表面温度の算出(2)
- P111 藤吉康志・大井正行(北大低温研)他3名 Xバンドドップラーレーダによるオホーツク海沿岸の海水と雪雲の観測
- P112 安達正樹(気象庁環境気象)他9名 気象庁の紫外線情報について
- P113 滝川雅之(FRCGC)・高橋正明(東大気候システム)他3名 都市スケール化学天気予報システムの開発(1)
- P114 谷川朋範(北見工大)・青木輝夫(気象研)他5名 積雪双方方向反射率に対する非球形粒子の効果
- P115 田中智章・杉田考史(環境研)他4名 CO₂ ν₃帯におけるCO₂-N₂混合気体の隔翼の影響についての考察
- P116 道本光一郎・花田隆(防衛庁)他3名 2005年航空機被雷時のレーダーエコー観測
- P117 村上真也・岩山隆寛(神戸大院自然) β面上の強制2次元乱流における帯状流の東西非対称性のパラメータ依存性
- P118 杉山耕一郎・小高正嗣(北大院理)他2名 木星大気雲対流モデルの定式化
- P119 高橋暢宏・川村誠治(NICT)他3名 稚内VHFレーダによる対流圏の擾乱の観測
- P120 長谷川拓也(気象研)・堀井孝憲(東北大院理)他1名 エルニーニョ・イベント終焉期における赤道太平洋表層貯熱量の振る舞いと大気場の関係
- P121 吉本淳一・塩谷雅人(京大生存研)他1名 インドネシア域における降雨特性と衛星による植生変動の解析
- P122 橋口典子・塩谷雅人(京大生存研) 熱帯対流圏界面領域における温度・高度場半年周期成分の空間構造
- P123 広瀬望(JST)・上野健一(筑波大院生命環境) WRFを用いた冬期チベット高原における風系の日変化と積雪の影響に関する基礎的検討
- P124 堀田大介・中村尚(東大院理) ストームトラック域の大気傾圧性の維持における海面からの顕熱供給の重要性
- P125 篠田太郎・坪木和久(名大地球水循環)他4名 熱帯海洋上の大気境界層内の鉛直循環に関する数値シミュレーション
- P126 渡辺力・大谷義一(森林総研)他8名 群落多層モデルを用いた冷温帯常緑樹林における熱・炭素収支の解析
- P127 上野健二・林陽生(筑波大院生命環境)他2名 筑波山頂における自動気象観測の復活
- P128 田中健路(熊本大工)・滝川清(熊本大沿岸域セ) 有明海干潟上の大気エネルギーフラックス観測
- P129 吉田保衡(九大院総理工)・鶴野伊津志(九大応力研)他2名 温暖化時の九州地域の風力エネルギーの変化について
- P130 藤原忠誠(北大院環境科学院)・藤吉康志(北大低温研)他1名 晴天積雲の形成過程の観測
- P131 講演中止
- P132 稲垣厚至・神田学(東工大院理工) 屋外都市スケールモデルにおける乱流統計量の鉛直分布
- P133 高橋直也・高橋忠司(埼玉大教育) 2004年7月20日における関東地方の高温について
- P134 山本奈美(東大院新領域・院生)・松本淳(東大院理)他1名 関東地方における暖候季の強雨の出現頻度の経年変化
- P135 大島和裕・山崎孝治(北大院地球環境)他4名 シベリアにおける流域スケールの植生変化が大気へ与える影響
- P136 本谷研・徐健青(FRCGC)他1名 温暖化問題と都市気温-統報
- P137 新居知巳・岩崎博之(群馬大教育)他1名 モンゴルにおける降水の年々変動と季節変動に関する研究
- P138 佐藤均・前田修平(気象庁気候情報)他1名 2005年12月のアジアジェット沿いのロスビー波列の持続
- P139 大塚造司(防災科研)・江守正多(環境研) 夏季アジアモンスーンに対する地球温暖化の力学・熱力学的効果

- P140 相原史・川村隆一(富山大理)他2名 インドシナ半島の植生変化がもたらすアジアモンスーン循環の変化
- P141 森岳史(日大院総合基礎科学)・山川修治(日大文理) インドモンスーン・東アジアモンスーンの関連性に関する気候学的研究-チベット高気圧と熱帯収束帯に主眼を置いて-
- P142 柳瀬亘・阿部彩子(東大気候システム) 最終氷期極大期の北太平洋大気循環に関する大気海洋結合GCM間の比較
- P143 須藤健悟・秋元肇(FRCGC)他1名 全球対流圏オゾンの変動要因: エミッション・気候・成層圏オゾンの各変動の影響
- P144 仲江川敏之・保坂征宏(気象研) AGCM実験に基づく大陸河川季節平均流量の潜在的予測可能性
- P145 堀正岳(名大院環境)他2名 地球温暖化シナリオ実験下における北極振動の長期トレンドと地表面気温との関係
- P146 田中実(気象研) 20世紀における日本付近の冬の気温とシベリア高気圧・アリューシャン低気圧(PDO)・北極振動の関係
- P147 瀬古弘・斉藤和雄(気象研)他4名 豪雨や短時間強雨をもたらした降水系の同化実験(その3)
- P148 宮崎保彦(気象庁観測) 熱帯低気圧発生パターンの地理的分布
- P149 和田章義・碓氷典久(気象研) 海洋貯熱量分布と台風発生・急発達との関係
- P150 山田洋平・竹見哲也(東工大総理工)他1名 台風T0422通過時に生じた強風の局所性・突発性のメソ気象モデルによる再現性について
- P151 祖慶良平(京大院理)・岩嶋樹也(京大防災研) 京都盆地に進入する広域海風・湖風についての数値実験
- P152 岩永博之・甲斐憲次(名大院環境) 夏季のタクラマカン砂漠におけるダストストームの発生過程に関する研究
- P153 渡邊明(福島大理工) 豪雨域と水蒸気移流
- P154 原政之・吉兼隆生(FRCGC)他4名 20km格子GCMによる海洋大陸周辺域における対流活動の日変化の再現性
- P155 深尾一仁・吉野純(岐阜大院工)他4名 リアルタイム局地気象予測システムによる風力エネルギー量の予測
- P156 小山博司・渡部雅浩(北大院地球環境) 大気長周期変動が日本域の週間予報へ与える影響
- P157 南雲信宏(北大院地球環境)・藤吉康志(北大低温研) 凍雨の観測と解析~凍雨の生成過程と落下速度の関係について~
- P158 森真理子(高層台)・中里真久(気象研)他1名 2004年9月29日尾鷲付近で発生した集中豪雨の事例解析(II) -降水システムの発生から形成期について-
- P159 平松和彦(旭川西高) 新しい旭川市科学館の低温室における実験教室

大会第2日〔5月22日〕9:30～11:30 一般口頭発表

()は講演者を表す)

A 会場

B 会場

気候システム II

物質循環 II

座長：田中 博（筑波大計算科学）

座長：岡田菊夫（気象研）

- A201 岩尾航希・高橋正明(東大気候システム)他1名 夏季北東アジアにおける1980年以降の気候変化
- A202 Suryachandra Rao Anguluri・Jing Jia Luo (FRCGC) 他3名 The role of ocean-atmosphere coupling in the Indian Ocean on simulation of the intraseasonal oscillations in a coupled general circulation model
- A203 Karumuri Ashok (FRCGC)・Nakamura Hisashi (FRCGC/U-Tokyo) 他1名 THE SOUTHERN HEMISPHERE WINTER STORMTRACKS: IMPACTS OF ENSO, AND IOD
- A204 服部友則・花輪公雄(東北大院理) 20世紀の北半球海面水温場に見出された長期変動
- A205 坂井大作・伊藤久徳(九大院理)他1名 偏差場の気候変動
- A206 田中博(筑波大計算科学)・横山直美(筑波大院生命環境) 地球大気の特異固有解として得られる北極振動(その3) 中立モードの年変化
- A207 森正人・渡部雅浩(北大院地球環境) PNAのライフサイクル-MJOによるtriggering-
- A208 黒田友二(気象研) 気候モデルで現れた成層圏突然昇温の性質

- B201 原宏・梅本誠子(農工大農)他1名 イルクーツク, 重慶, 珠海の降水化学
- B202 持田陸宏(北大低温研)・桑田幹哲(東大先端研)他4名 大気エアロゾル粒子の吸湿特性:HTDMAを用いた吸湿成長因子測定から得られる知見
- B203 小林拓(山梨大)他6名 2005年春季における非水溶性粒子の粒径分布の測定および複素屈折率虚数部の推定
- B204 永田悠一・甲斐憲次(名大院環境)他3名 偏光ライダーを用いたタクラマカン砂漠におけるダスト層構造の研究
- B205 岡田菊夫・池上三和子(気象研)他2名 南北両半球の自由対流圏におけるエアロゾル粒子濃度の鉛直分布について
- B206 茂木信宏・近藤豊(東大先端研)他6名 太平洋東海沖上空で観測された黒色炭素エアロゾルの粒径分布、混合状態、雲除去過程
- B207 若林康雄・鶴田治雄(東大気候システム)他12名 ABC-EAREX05期間中の奄美大島における大気エアロゾルの化学組成と単一散乱アルベド
- B208 兼保直樹(産総研)・塩原匡貴(極地研) 小笠原父島におけるエアロゾルの光学的特性の季節変化
- B209 西澤智明(気象研/学振)・岡本創(東北大院理)他4名 2波長偏光ライダーから導出された太平洋熱帯域におけるエアロゾルの空間分布
- B210 久慈誠・近藤優美(奈良女子大理)他5名 近紫外衛星観測による、秋季日本近海におけるエアロゾルの解析
- B211 福田悟・中島映至(東大気候システム)他2名 人工衛星搭載多波長型イメージャーを利用したエアロゾル・リモートセンシング手法の開発

大会第2日〔5月22日〕9:30～11:30 一般口頭発表

() は講演者を表す)

C 会場

D 会場

降水システム II

座長：林 修吾（気象研）

- C201 永戸久喜・加藤輝之(気象研) 大雪となった2005年12月の新潟県における降雪特性と総観場の特徴
- C202 加藤輝之(気象研) 冬季日本海における積乱雲の潜在的発達高度に関する統計的研究
- C203 林修吾・加藤輝之(気象研) 発雷観測数と数値シミュレーションにおける雲物理量の統計的比較(2005/06冬)
- C204 川島正行(北大低温研) 寒冷前線降雨帯のコア・ギャップ構造の成因に関する数値実験
- C205 佐藤友徳(学振)・寺島司(筑波大院環境)他2名 関東地方南部における降水系の強化と都市の関係
- C206 鈴木由人・甲斐憲次(名大院環境) 関東地方におけるヒートアイランドと夏季雷雨に関する研究—1995年8月2日の事例解析—
- C207 堀江宏昭・大野裕一(NICT)他3名 航空機搭載雲レーダ(SPIDER)による衛星搭載雲レーダ同期予備実験の速報
- C208 島伸一郎・草野完也(地球シミュレータ)他2名 超水滴法による雲微物理過程の精密な数値シミュレーション

観測手法

座長：鈴木 修（気象研）

- D201 西澤智明(気象研/学振)・岡本創(東北大院理)他4名 Mie 散乱ライダーと高スペクトル分解ライダーを用いたエアロゾル導出アルゴリズムの開発
- D202 井村真悟・古本淳二(京大生存研)他4名 一次元変分法を用いた大気レーダーによる水蒸気プロファイルの推定
- D203 久保田拓志(JST)・重尚一(大阪府大院工)他5名 マイクロ波放射計データによる全球降水マップ(GSMaP)の作成と評価(2)
- D204 山田芳則(気象庁数値予報)・赤枝健治(気象庁観測) 2005年9月4～5日に豪雨をもたらしたバンド状降水雲のドップラーレーダー解析
- D205 柳野健(気象研) フーリエ漸近解法によるドップラー解析とVAD上層風解析
- D206 妻鹿友昭(大阪府大院工) 気象用ブロードバンドレーダの開発

中高緯度大気

座長：佐藤 薫（東大院理）

- D207 堀川英隆(京大院理)・向川均(京大防災研) 初夏のオホーツク海ブロッキング高気圧の形成メカニズム
- D208 遊馬芳雄(北大院理) 2004年1月中旬に北海道東部オホーツク海側に大雪をもたらした低気圧の解析

中層大気

座長：佐藤 薫（東大院理）

- D209 佐藤薫(東大院理)・堤雅基(極地研)他6名 南極昭和基地大型大気レーダー計画の現状
- D210 坂井亜紀子・廣岡俊彦(九大院理) 南半球成層圏における東西波数2の東進波について
- D211 柴田清孝・出牛真(気象研) 赤道成層圏QBOによる二次子午面循環の季節変化について

大会第2日〔5月22日〕11:30～12:30 ポスターセッション

(~~~~は講演者を表す)

P201～P215は、専門分科会「太平洋・インド洋域における大気海洋結合現象」(大会第2日〔5月22日〕13:30-17:00 A会場)に関連する発表です。著者と講演題目は専門分科会のプログラムに掲載しておりますので、そちらをご覧ください。なお、これらの講演は本ポスターセッションにて行われます。

- P216 海老田綾貴・眞木貴史(気象庁環境気象) 炭素循環逆解析におけるフラックス解析領域細分化の効果
- P217 村山昌平・田口彰一(産総研)他1名 大気輸送過程が大気中CO₂濃度の季節変動におけるDownward Zero Crossing出現日の年々変動に及ぼす影響
- P218 橋本謙充・町田敏暢(環境研)他1名 都市域における温室効果気体濃度と放出比
- P219 講演中止
- P220 白石浩二・林政彦(福岡大理)他7名 ライダーとエアロゾルゾンデ同時観測で得られた自由対流圏エアロゾルの光学特性について
- P221 水田亮(AESTO/気象研) 20km格子全球大気モデルにおける中緯度対流圏界面物質交換の季節依存性
- P222 室崎将史(東京理科大)・藤田慎一(電中研)他3名 パッシブサンブラーを用いた富士山におけるオゾンと二酸化硫黄の鉛直分布の測定
- P223 L. B. Zhou・秋吉英治(環境研) Lower stratospheric N₂O distributions in the early and late vortex years
- P224 齋藤尚子(東大気候システム)他3名 GOSAT 熱赤外FTSセンサーのCO₂観測誤差評価
- P225 青木輝夫(気象研)・堀雅裕(JAXA/EORC)他11名 ADEOS-II/GLI 雪水プロダクト再計算値検証結果
- P226 中村卓司・杉本尚悠(京大生存研)他5名 小型ラマンライダーによる水蒸気の観測
- P227 酒巻洋・若山俊夫(三菱電機)他1名 曲線あてはめによる台風中心検出方式の検討
- P228 西沢匡人・永井晴康(JAEA)他3名 大気化学物質の輸送モデルの自然放射性核種への適用
- P229 田中泰直・青木輝夫(気象研)他4名 鉱物ダストが放射収支に及ぼす直接効果の光学特性による違い
- P230 工藤玲・内山明博(気象研)他3名 直達光・全天散乱光からのエアロゾル光学特性の推定
- P231 鈴木智幸・道本光一郎(防衛庁)他3名 スプライトを発生させた冬季雷雲と放電の特徴
- P232 梅谷和弘・酒井敏(京大院人間環境) 微気圧計による大気圧の広帯域スペクトルと気象現象
- P233 鈴木一歩(筑波大自然)・田中博(筑波大計算科学) 準地衡風モデルによる大気大循環のエネルギースペクトルの検証
- P234 坂見智法・保坂征宏(気象研) 重力波抵抗パラメトリゼーションと確率過程
- P235 谷田具重紀代・宮崎千尋(総合地球環境学研究所) 東地中海地域の近年の降水変動傾向
- P236 村田文絵(地球研)・寺尾徹(大阪学院大)他3名 チェラプンジにおける降水過程に関する研究(第2報)
- P237 橋口浩之(京大生存研)・Findy Renggono (BPPT, Indonesia)他2名 赤道大気レーダーによる熱帯域降水特性の研究
- P238 吉岡真由美(東大海洋研)・栗原宜夫(FRCGC) 大気大循環モデルを利用した水惑星実験に見られる熱帯低気圧性擾乱(その2)
- P239 向野智彦(筑波大自然)・田中博(筑波大計算科学) 日本付近の温帯低気圧の3次元構造に関する流跡線解析
- P240 本田明治・高谷康太郎(FRCGC)他1名 2005年12月に日本に寒さをもたらした大気循環場の特徴
- P241 川島茂人・杜明遠(農環研)他3名 チベット高原における気象環境のトランゼクト解析
- P242 中田淳子・木田秀次(京大院理)他2名 放射の日変化が地表面熱フラックスに及ぼす影響
- P243 黒崎泰典(千葉大 CEReS)・三上正男(気象研)他1名 積雪のダスト発生への影響の季節による違い
- P244 萩野谷成徳(気象研) 突風率から推定した地表面粗度の長期変化
- P245 斎藤修平・巒田邦夫(東海大海洋) 駿河湾付近に発生する収束線とその周辺地域の気象への影響
- P246 井上大輔・大橋唯太(岡山理大総合情報)他1名 ビル街と住宅街における気温と街区構造の関係
- P247 廣岡智・稲垣厚至(東工大院理工)他1名 屋外都市・準実スケールモデル COSMO における乱流組織構造
- P248 篠原瑞生・石川裕彦(京大防災研) 台風の強度変化と海洋上層の貯熱量の関係
- P249 高野洋雄・村田明彦(気象研)他1名 波浪による海面粗度変化の台風発達への影響
- P250 筆保弘徳・飯塚聡(防災科研)他3名 T0422で観測されたメソβスケール Pressure dip
- P251 佐々浩司(高知大理)・福原弘之(高知大院理) ローターマイクロバーストの模擬実験
- P252 小川由佳(防衛大地球海洋)他 夏季東京都心周辺における積乱雲の発生過程 - 2004年8月10日の事例 -
- P253 梶原佑介・新野宏(東大海洋研)他2名 冬季日本海で発生したポーラーロウのライフサイクルと内部構造
- P254 市川裕樹(名大院環境)・安成哲三(名大地球水循環) 海洋大陸において大規模擾乱中を東方伝播する日周変化擾乱について

- P255 井上豊志郎(気象研)・川合秀明(気象庁気候情報)
亜熱帯海洋性層積雲スキームの精緻化の試み
- P256 高谷美正(所属なし)・鈴木修(気象研) 00Zの高層
データから日中の雷雨を予測する新しい試み(続報)
- P257 脇水健次(九大院農)他10名 2006年2月4日に北
部九州で実施された航空機による雲中液体炭酸撒布
人工降雨実験
- P258 岩崎杉紀(防衛大地球海洋)・圓山憲一(防災科研)他
2名 Optical Particle Counterによって観測された
Subvisual Cirrus Cloudsの1次元モデルによる考察
- P259 宮下敦(成蹊高)・松山由香(成蹊気象観測所) 観測
開始から80年を迎えた成蹊気象観測所

大会第2日〔5月22日〕13:30～17:00 専門分科会

()は講演者を表す)

A 会場

「太平洋・インド洋域における大気海洋結合現象」

趣旨説明：中村 尚 (東大院理 /FRCGC)

座長：中村 尚 (東大院理 /FRCGC)

- 13:33～13:48 A251 Behera K. Swadhin・Luo Jingjia (FRCGC)他4名 The Relationship between IOD and ENSO in a CGCM Simulation 【招待講演】
- 13:48～14:03 A252 Jing-Jia Luo・Toshio Yamagata (FRCGC) Seasonal Climate Predictability in a Coupled OAGCM using a Different Approach for Ensemble Forecasts
- 14:03～14:18 A253 H. Annamalai (IPRC/SOEST, University of Hawaii)・H. Okajima (Meteorology Dept., University of Hawaii) 他1名 Possible Impact of the Indian Ocean SST on the Northern Hemisphere Circulation during El Nino
- 14:18～14:33 A254 植田宏昭・大庭勝道(筑波大院生命環境) モンスーン域内での大気海洋相互作用の特異性
- 14:33～14:48 A255 QIN Huiing・KAWAMURA Hiroshi (東北大院理)他1名 Hot events in the tropical oceans
- 14:48～15:03 A256 清木亜矢子・高薮緑(東大気候システム) ENSOの位相と関連したMJO内部擾乱の発達と西風バースト発生との関係

15:03～15:15 休憩

座長：謝尚平 (ハワイ大 IPRC)

- 15:15～15:30 A257 Niklas Schneider・Bunmei Taguchi (IPRC) 他4名 Air-Sea Interaction in the Kuroshio-Oyashio Extension 【招待講演】
- 15:30～15:45 A258 野中正見(FRCGC)・中村尚(FRCGC/東大院理)他3名 親潮の経年/十年規模変動と亜寒帯前線域の海面水温変動
- 15:45～16:00 A259 見延庄士郎(北大院理) AMSR-Eで見る湾流と黒潮統流の雲水量と降水量への影響
- 16:00～16:15 A260 甲斐浩平・谷本陽一(北大院・地球環境) 2005年夏季の黒潮統流域における大気下層構造と下層雲形成の観測的研究
- 16:15～16:30 A261 美山透(FRCGC)・謝尚平(IPRC)他7名 領域海洋大気結合モデルに見られる東太平洋の気候場形成
- 16:30～16:45 A262 小守信正・吉田聡(地球シミュレータ)他2名 CFESによる高解像度大気海洋結合シミュレーション(II)
- 16:45～17:00 A263 望月崇・五十嵐弘道(FRCGC)他10名 四次元変分法を用いた大気海洋結合データ同化システムによる気候値データセットの作成

※講演はいずれも15分(1鈴：8分；2鈴：12分；3鈴：15分)

ポスター発表

(以下の講演は、大会第2日[5月22日] 11:30-12:30のポスター・セッションにて行われます)

- P201 吉田聡・小守信正(地球シミュレータ)他1名 オホーツク海海水密度と爆弾低気圧発生数の統計解析
- P202 神代剛・塩谷雅人(京大生存研) 衛星観測データにみられる海洋上の下層雲量の季節変動
- P203 浅川尚吾・見延庄士郎(北大院理)他1名 1999-2001年の黒潮親潮流域における異常昇温の構造・メカニズム・インパクト
- P204 谷本陽一・高垣吾朗(北大院地球環境) 領域大気モデルを用いた黒潮流域の海面水温偏差に対する惑星境界層の変化についての研究
- P205 Rosbintarti Kartika Lestari・Toshiki Iwasaki(東北大院理)他3名 Mechanism of the interaction between the Indian monsoon and the South China Sea monsoon
- P206 大庭雅道・植田宏昭(筑波大院生命環境) インド洋の海面水温偏差の ENSO に対する応答とそのフィードバック
- P207 小寺邦彦(気象研) インド洋ダイポール現象に対する ENSO の影響に見る太陽活動の役割
- P208 中村哲・立花義裕(東海大)他2名 西風バーストを介した、AO による ENSO への影響
- P209 榎本剛・小守信正(地球シミュレータ)他1名 CFES による熱帯季節内振動の再現性
- P210 菊地一佳・Bin Wang (IPRC) TRMM により得られる季節内周期での降水と海面水温の関係
- P211 佐藤弘康(熊大自然科学研究科)・富田智彦(熊大理学部/地球環境フロンティア) 梅雨活動の十年規模変動 — 夏季における海洋から大気への影響の一例として —
- P212 謝尚平(ハワイ大) 狭い山岳がアジアモンスーンに及ぼす影響
- P213 時長宏樹・茂木耕作(IORGC)他3名 西部熱帯太平洋における海面水温と降水の季節変化
- P214 諏訪祥士・塚本修(岡山大院・自然科学)他1名 太平洋赤道海域における海面乱流フラックスの評価 — 「みらい」・「トライトンブイ」による渦相関法とバルク法の比較
- P215 板野登久・細谷宗行(防衛大地球海洋) 台風 Sinlaku(T0216) の多角形眼のスペクトル解析

大会第2日〔5月22日〕13:30～17:00 専門分科会

(____は講演者を表す)

B会場

「アジアにおける広域大気汚染とその環境影響」

趣旨説明：近藤 豊（東大先端研）

座長：近藤 豊（東大先端研）

- 13:40～14:05 B251 増井利彦(環境研) アジアの大気汚染物質の排出
 14:05～14:15 B252 秋元肇(FRCGC/JAMSTEC) アジアにおける大気汚染物質の排出 ーコメントー
 14:20～14:45 B253 竹川暢之・近藤豊(東大先端研) アジアの都市域・広域におけるエアロゾルの変動
 14:45～14:55 B254 小池真(東大院理) 二次有機エアロゾルモデルの現状

14:55～15:00 質疑応答

15:00～15:15 休憩

座長：笹野泰弘（環境研）

- 15:15～15:40 B255 谷本浩志(環境研) アジアにおける対流圏オゾン：過去の観測事実と将来のモデル予測
 15:40～15:50 B256 小林和彦(東大院農)・近藤豊(東大先端研) 地表オゾン濃度上昇が東アジアの農業生産に及ぼす影響

15:50～15:55 質疑応答

- 15:55～16:20 B257 竹村俊彦(九大応力研) アジア域におけるエアロゾル気候影響のシミュレーション
 16:20～16:30 B258 村上正隆(気象研) アジア域におけるエアロゾルの間接効果に関する実験・観測的研究

16:30～16:35 質疑応答

座長：中島映至（東大気候システム）

16:35～17:00 総合討論

大会第2日〔5月22日〕13:30～17:00 専門分科会

(____は講演者を表す)

C会場

「種々の地表面上に発達する大気境界層の観測とモデリングに関する 研究の現状と将来展望」

13:30～13:35 趣旨説明：檜山哲哉（名大地球水循環）

座長：浅沼順（筑波大陸域環境）

- 13:35～13:55 C251 松島大(千葉工大) リモートセンシングと数値モデルによる地表面熱フラックスと関連するパラメータの推定
- 13:55～14:10 C252 小谷亜由美・杉田倫明(筑波大院生命環境) 航空機観測データを用いた混合層分散法による地表面フラックスの推定
- 14:10～14:30 C253 田中広樹・檜山哲哉(名大地球水循環)他8名 中国淮河中流域における地表面フラックスおよび大気境界層観測
- 14:30～14:50 C254 遠藤智史(名大院環境)・篠田太郎(名大地球水循環)他 2004年初夏の中国淮河中流域における対流境界層内の鉛直循環の特徴
- 14:50～15:00 コメント 篠田太郎(名大地球水循環) 講演番号 P125 と関連
- 15:00～15:10 コメント 田中健路(熊本大工) 講演番号 P128 と関連

15:10～15:20 休憩

座長：神田学（東工大院理工）

- 15:20～15:40 C255 森脇亮(東工大院理工) 都市域における乱流・フラックス観測研究の動向
- 15:40～16:20 C256 Siegfried Raasch (ハノーバー大学) High resolution Large Eddy Simulations on the effects of land surface heterogeneities
- 16:20～16:35 C257 山下和也(北大地球環境)・藤吉康志(北大低温研)他1名 コヒーレントドップラーライダーを用いた大気境界層の縞状気流構造の研究
- 16:35～16:45 コメント 吉崎正憲(気象研) 講演番号 B312 と関連

座長：檜山哲哉（名大地球水循環）

16:45～17:00 総合討論

大会第3日〔5月23日〕9:30～11:30 一般口頭発表

() は講演者を表す)

A 会場

B 会場

気候システム III

大気境界層

座長：齋藤冬樹 (FRCGC)

座長：木村富士男 (筑波大院生命環境)

- A301 横島徳太・江守正多(環境研)他7名 CO₂増加に対する気候応答：海洋熱吸収と氷アルベドフィードバック
- A302 樋口麻衣・渡部雅造(北大地球環境) AGCMとCRMを用いた夏季中緯度海洋上の下層雲のオフラインシミュレーション
- A303 Chen Xianyan・木本昌秀(東大気候システム) 高解像度大気海洋結合モデルで表現された赤道海洋不安定波
- A304 大石龍太・阿部彩子(東大気候システム) 地球温暖化における気候動態植生相互作用の役割
- A305 小畑淳(気象研) 陸域二酸化炭素施肥効果の不確実性が温暖化予測に及ぼす影響
- A306 馬淵和雄(気象研)・木田秀次(京大院理) アジア熱帯域森林植生変動が炭素循環に与える影響について—BAIM2を導入した全球気候モデルによる数値実験—
- A307 鬼頭昭雄・本井達夫(気象研)他1名 気象研究所気候モデルによる完新世中期のエルニーニョシミュレーション
- A308 村上茂教・酒井孝太郎(FRCGC)他2名 氷期気候系におけるエネルギー・淡水バランス
- A309 阿部彩子(東大気候システム)・瀬川朋紀(FRCGC)他1名 氷期間氷期サイクル出現のメカニズム(I)：フオーシングに対する定常応答解と気候変動
- A310 柳瀬亘・阿部彩子(東大気候システム) 最終氷期極大期の北太平洋大気循環に対する氷床の影響～GCMによる感度実験
- A311 山岸孝輝(東大気候システム)・阿部彩子(東大気候システム、FRCGC)他1名 大気大循環モデルと3次元氷床モデルによる最終氷期開始時大気氷床結合系の解の多重性についての検討
- A312 齋藤冬樹(FRCGC、JAMSTEC)・阿部彩子(CCSR/FRCGC、JAMSTEC)他1名 大気海洋結合モデルおよび3次元氷床モデルを用いたグリーンランド氷床の温暖化実験

- B301 高田直樹・遠峰菊郎(防衛大地球海洋) 気温逆転層内で捉えた波動現象について
- B302 小川弘子・菅原広史(防衛大地球海洋)他6名 都市キャニオンにおける風速プロファイル
- B303 竹見哲也(東工大院総理工)・有光剛(関西電力)他1名 大阪平野における夏季晴天時の海風の時空間構造
- B304 飯澤功・酒井敏(京大院人間環境)他5名 京都市気象観測—高解像度・高頻度でみるヒートアイランド現象—
- B305 酒井敏・伊藤文(京大院人間環境)他5名 京都市気象観測—熱慣性から見た都市部の熱的構造—
- B306 矢島新(京大院地球環境)・酒井敏(京大院人間環境)他5名 京都市気象観測—都市・郊外を構成する物質の熱慣性測定—
- B307 武井泰之・田村哲郎(東工大院総理工)他2名 メソ気象モデルとLESの融合による都市域強風解析の精緻化
- B308 大塚清敏(大林組技研) 台風0423号による広戸風の生成機構に関する考察
- B309 田中博(筑波大計算科学)・Hi-Ryong Byun (Pukyong Univ., Korea) 韓国 Ice Valleyにおける風穴循環の数値実験：2次元モデルの再構築
- B310 竹見哲也(東工大院総理工)・石川裕彦(京大防災研) 砂漠域における乾燥・湿潤対流とダスト輸送の高解像度数値シミュレーション
- B311 木村富士男(筑波大院生命環境)・笠井智子(筑波大自然科学類) サーマルとアーベントテルミック
- B312 吉崎正憲・林修吾(気象研)他1名 凸凹のある地表面を持つ雲解像非静力学モデルの開発

大会第3日〔5月23日〕9:30～11:30 一般口頭発表

()は講演者を表す)

C 会場

D 会場

台風

気象予報

座長：楠 研一 (気象研)

座長：大関 誠 (気象研)

- C301 吉川敏文・板野稔久(防衛大地球海洋) 新しい気圧分布式の特徴について
- C302 花房瑞樹・遊馬芳雄(北大院理) 2004年台風23号近畿周辺の水蒸気解析
- C303 栗原宜夫(FRCGC)・吉岡真由美(東大海洋研) 台風構造の変化における鉛直面循環の役割
- C304 上野充(気象研) 台風コア域内降水非対称の強制力指標としての「鉛直シア」の妥当性
- C305 別所康太郎・中澤哲夫(気象研)他2名 北西太平洋上における台風へ発達する可能性のあるクラウドクラスタの統計解析とその温暖核構造
- C306 三浦裕亮・富田浩文(FRCGC)他3名 現実的実験による全球雲解像モデルの検証
- C307 佐藤晋介・北村康司(NICT)他3名 400MHz帯ウィンドプロファイラとCOBRAで観測された台風0418号の鉛直構造
- C308 浅田浩之(山梨大院医学工学総合教育)・大石哲(山梨大院医学工学総合研究)他2名 台風内部のメソ擾乱組織の形成・破壊過程に関する研究
- C309 中里真久・鈴木修(気象研)他4名 台風中心の南方に出現する特異な線状の降雨帯の成因と構造
- C310 楠研一(気象研)・入江和紀(成田地台) 台風0003号のアウトバウンド下層に見られた重力波構造
- C311 楠研一(気象研) 空港気象ドップラーレーダーによる台風の観測的研究について - データリストの作成と観測ポテンシャルの評価 -

- D301 齊藤和雄(気象研)・経田正幸(気象庁数値予報)他1名 メソモデルによるダウンスケールアンサンブル予報実験(その3)境界条件の影響の内部への伝播
- D302 國井勝・大関誠(気象研)他1名 気象庁非静力学モデルに対する特異ベクトルの計算(第2報)
- D303 國井勝・川畑拓矢(気象研) 熱帯域における台風初期値作成のための領域解析
- D304 小司慎教・國井勝(気象研) 地上GPS準リアルタイム解析の改良とデータ同化実験
- D305 本田有機(気象庁数値予報) 雲物理過程を考慮した非静力学メソ4次元変分法(JNoVA)を用いた地上降水とレーダー反射強度の同化による量的降水予報の改善(1)
- D306 青梨和正・永戸久喜(気象研) 衛星搭載マイクロ波放射計データの非静力学雲解像モデルへの同化法の開発(その4): Ensemble Kalman Filter 解析スキムの試作
- D307 三好建正(気象庁数値予報)・山根省三(千葉科学大/FRCGC) 地球シミュレータを使った局所アンサンブル変換カルマンフィルタの完全モデル実験
- D308 松枝未遠(筑波大院生命環境)・経田正幸(気象庁数値予報)他2名 JMA/NCEP/CMC 現業アンサンブル予報値を用いたマルチセンターグランドアンサンブルの構築 - 冬季における予報精度 -
- D309 石川宜広(気象庁数値予報) 雲解析による高分解能メソ数値予報モデルの初期値化

大気力学 I

座長：大関 誠 (気象研)

- D310 前島康光・伊賀啓太(東大海洋研)他1名 対流圏上層の渦列に関する線形安定解析
- D311 相木秀則(FRCGC)・山形俊男(FRCGC/東大院理)他1名 渦解像海洋大循環モデルによる層厚形状抵抗の見積り
- D312 間瀬博文(所属なし) 低温体を挟む高温体同士の間で働く引力の実在が露わになる実験映像を公開する

大会第3日〔5月23日〕11:30～12:30 ポスターセッション

() は講演者を表す)

- P301 澤庸介(気象研)・谷本浩志(国環研)他10名 ABC-EAREX2005期間中に観測されたCO濃度の上昇
- P302 五十嵐弘道・石田信浩(FRCGC)他6名 夏季のユーラシア北部にもたらされる降水に果たす土壌水分の役割について
- P303 荒生公雄・大川歩子(長崎大環境科学)他 長崎地方における2005年11月の黄砂現象
- P304 林政彦・東ひとみ(福岡大理) ESEM-EDXによる個別エアロゾル粒子中の窒素定量分析法の検討
- P305 高橋直・柴田清孝(気象研)他3名 鉱物ダスト発生・浮遊量の長期トレンド
- P306 渡辺幸一(富山県立大短大部)他8名 立山における微量気体成分および霧水・降水中の化学成分濃度の測定(II)
- P307 忠鉢繁(気象研) 南極極夜域のオゾン濃度の高度分布(オゾンホール)の開始時期
- P308 吉田幸生・小熊宏之(環境研)他5名 短波長赤外線リエ変換分光器(GOSAT-BBM)による二酸化炭素スペクトルの高所観測実験
- P309 瀬古弘・斉藤和雄(気象研)他4名 CHAMPやウィンドプロファイラーの屈折率データから推定した水蒸気プロファイル
- P310 広瀬正史・沖理子(JAXA/EORC)他3名 8年間蓄積されたTRMM PRデータによる降水量の地域特性
- P311 関澤信也(NICT) MSPC ウィンドプロファイラによる風観測結果
- P312 Napoleon・増本新吾(山武)他5名 ゾンデ搭載用小型鏡面冷却式露点計FINEDEW™の開発
- P313 小野耕作・酒井敏(京大院人間環境)他1名 揚力を利用した翼型係留気球の開発
- P314 船村尚起・酒井敏(京大院人間環境)他3名 小型黒球温度計の開発と都市環境測定
- P315 石元裕史(気象研) 粒子表面のラフネスによる光散乱特性の変化
- P316 佐藤真仁・森本健志(阪大院工)他2名 雷嵐観測用VHF波帯広帯域干渉計の開発(4) - 雷放電進展様相と雲内電荷分布 -
- P317 富川喜弘(極地研)・佐藤薫(東大院理)他3名 改良ラグランジュ平均座標系で記述する北半球極渦の時間発展
- P318 池田恒平(東大気候システム)・山本勝(九大応力研)他1名 金星大気循環モデルの開発とシミュレーション
- P319 松ヶ谷篤史・古本淳一(京大生存研)他1名 MUレーダー観測強化システムを用いた乱流3次元微細構造とRASSによる温度の同時観測
- P320 高島久洋・塩谷雅人(京大生存研) オゾンゾンデデータから見た熱帯対流圏界面近傍のオゾン変動
- P321 児玉安正・徳田弥夏(弘前大理工)他1名 CPEA-I期間中のインドネシア海洋大陸の対流活動 - 雷活動とQ1・Q2プロファイルの解析 -
- P322 山本真之・永田肇(京大生存研)他8名 赤道大気レーダー(EAR)・雲レーダー(SPIDER)による熱帯上部対流圏の巻雲観測
- P323 阿保真・長澤親生(首都大システムデザイン)他1名 赤道ミライダー長期観測による雲発生頻度のClimatology
- P324 横山直美(筑波大院生命環境)・田中博(CCS、FRCGC/JAMSTEC) 大気の順圧成分で定義される北極振動の季節変化
- P325 鈴木真一(防災科研)・Brian J. Hoskins (Univ. Reading) 梅雨明け時の循環の変化について
- P326 戸田求(北大低温研)・横沢正幸(農業環境技術研究所)他1名 高CO₂が森林動態や大気-陸面間の熱・水・CO₂フラックスへ及ぼす影響
- P327 宮崎真・芳村圭(東大生産研)他4名 タイにおける陸面モデルMATSIROの土壌水理特性による水収支への影響
- P328 石塚正秀(香大工)・三上正男(気象研)他3名 2003年3月のタクラマカン砂漠の砂砂漠と砂礫砂漠における飛散過程の観測
- P329 畑村真一・竹見哲也(東大院総理工)他2名 根室半島における風況の局地性・季節性に関する解析
- P330 中井太郎(JST/CREST, 北大低温研)・van der Molen, M.K. (Vrije Univ., the Netherlands) 他2名 超音波風速計のangle of attack 依存誤差補正とそのフラックスへの影響について
- P331 河合徹・金賀将彦(東大院理工)他1名 屋外模型都市実験による空気力学的都市地表面パラメータの検討と簡易都市エネルギーバランスモデル(SUMM)への適用
- P332 関隆則(気象予報士会) 日射加熱率の緩和時間でみた、関東域における気温変化の特徴
- P333 川手妥孝・甲斐憲次(名大院環境) 気圧配置の違いからみた夏季晴天日の濃尾平野における局地気候の特徴
- P334 菅原広史(防衛大地球海洋)他6名 都市キャニオン内における建物高さスケールの渦の形成
- P335 榎原保志(信州大教育)・中川清隆(立正大学地球環境) 軽風時における小集落の夜間ヒートアイランドの成因について
- P336 宮崎千尋・谷田貝亜紀代(地球研) イランの冬季降水量年値と地形の影響
- P337 鈴木博人(JR 東日本) 日本における降水量、積雪深、大雨、及び大雪の気温依存性
- P338 小林ちあき・前田修平(気象庁気候情報)他1名 2005年12月の偏西風の異常

- P339 榎島あずさ(学芸大・院)・高橋日出男(学芸大) モンスーン開始期前後におけるネパールの降水現象と循環場との関係
- P340 佐藤友徳(学振)・木村富士男(筑波大院生命環境) チベット高原上の顕潜熱加熱とインドモンスーン降水との関連
- P341 藤波初木・安成哲三(名大地球水循環) 梅雨(Meiyu)期における中国大陸上の対流活動の数週間周期季節内変動
- P342 財城真寿美・塚原東吾(神戸国際文化)他2名 日本における19世紀気象観測記録を使用した気圧配置パターンの復元
- P343 五藤大輔・中島映至(東大気候システム)他1名 二次生成有機炭素エアロゾル(SOA)の気候への影響
- P344 江口菜穂・横田達也(環境研)他1名 ICESat/GLASデータを用いた絹雲高度分布の解析
- P345 藤田玲子(筑波大院環境科学)・田中博(筑波大計算科学) 太陽活動及び地磁気活動と北極振動の関係
- P346 行本誠史・小寺邦彦(気象研) 大気海洋結合モデル実験による北極振動の太陽活動による変調の可能性
- P347 永田玲奈・三上岳彦(首都大都市環境) 熱帯太平洋海面水温変動に対する東アジア夏季循環場の応答
- P348 横山千恵・高藪緑(東大気候システム) TRMM衛星データを用いた台風の降雨特性に関する全球的な統計解析
- P349 佐藤茉莉・児玉安正(弘前大理工) 比較的高緯度に発生する Tropical Cyclone について
- P350 佐々木佳明・合田衣里(秋田県立大生物資源)他2名 秋田に潮風害をもたらした台風0415号に関する解析
- P351 出世ゆかり・中川勝広(NICT)他3名 梅雨期の東シナ海における対流性降水のCOBRA 偏波特性 ～孤立タイプと層状埋め込みタイプの偏波特性の比較～
- P352 奥田智洋・遠峰菊郎(防衛大地球海洋)他2名 三沢飛行場における霧の視程と粒径分布の関係
- P353 坂本圭・高橋正明(東大気候システム) 上層寒冷低気圧と対流雲が関連したシステムの構造
- P354 北島尚子(気象研) 2005年梅雨期の日本付近の上層の流れと対流活動の関係
- P355 益子涉(気象研) 高解像度非静力学モデルによるT0422号の微細構造の再現性
- P356 吉本造二(気象庁観測)・小司禎教(気象研)他1名 GPS可降水量を用いた実況監視ツールの開発
- P357 和田章義(気象研) 海洋混合層過程と水晶発生過程が台風強度に与える影響 -非静力学台風海洋混合層結合モデルによる台風10号(2004)の数値実験-
- P358 井口享道・中島映至(東大気候システム)他1名 非静力学モデルをベースとしたバルク法・ビン法雲微物理スキームの比較実験
- P359 森厚(学芸大)他7名 「大気の流れを探れ!」-どこでもミュージアム・エコ実践報告-

大会第4日〔5月24日〕9:30～11:30 一般口頭発表

(~~~~は講演者を表す)

A 会場

B 会場

気候システム IV

相互作用

座長：水田 亮 (AESTO/ 気象研)

座長：大泉三津夫 (気象研)

- A401 水田亮・大内和良(AESTO/ 気象研)他 20km 格子
全球気候モデルで異なる海面水温変化を与えたタイ
ムスライス実験
- A402 楠昌司(気象研)・水田亮(AESTO/ 気象研)他
20km 格子全球大気モデルによる地球温暖化時の梅
雨：海面水温依存性
- A403 吉村純(気象研)・大内和良(AESTO/ 気象研)他 4 名
20km 格子全球大気モデルによる温暖化実験におけ
る台風 - 海面水温への依存性について
- A404 上口賢治(気象研)他 20km 格子全球大気モデルに
よる降水エクストリーム：海面水温依存性
- A405 荒川理(AESTO/MRI)・鬼頭昭雄(MRI)他 20km
メッシュ全球モデルでの熱帯降水量日変化の温暖化
による変動 (2) ～ MIROC 高解像度版による温暖化
海面水温変化量を用いた実験～
- A406 室井ちあし(気象研予報)・金田幸恵(AESTO)他 7
名 水平解像度 1km 非静力学モデルによる領域温
暖化予測実験(1)概要
- A407 金田幸恵(AESTO)・室井ちあし(気象研)他 5 名
水平解像度 1km 非静力学モデルによる領域温暖化予
測実験(2)事例解析：九州南西海上で合流する降水シ
ステム
- A408 橋本明弘(AESTO)・村上正隆(気象研)他 6 名 水
平解像度 1km 非静力学モデルによる領域温暖化予測
実験 (3) 水平解像度 5km との比較

- B401 吉野純・加野利生(岐阜大院工)他 2 名 メソスケール
大気-陸面結合モデルを用いた岐阜県地域の炭素
収支量の評価
- B402 齋藤琢・玉川一郎(岐阜大流域圏)他 2 名 急斜面上
に位置する常緑針葉樹林における熱収支
- B403 小田僚子(東工大院理工)他 2 名 東京湾における気
温と海面温度の関係
- B404 大泉三津夫(気象研) JMANHM 新陸面モデルによ
る関東平野の積雪再現実験
- B405 広瀬直毅(九大応力研)・福留研一(九大院総理工)他
1 名 海流観測から降雪量を予測する
- B406 市成隆(気象庁海洋気象情報) 黒潮流軸上に発生す
る対流雲～海洋から大気に影響を与えた事例～
- B407 山内明子(東洋大院生命科学)・小林裕司(伊豆海洋科
学研究所)他 2 名 黒潮大蛇行時における海水温変動
の LFD 変化について
- B408 佐藤尚毅(IORGC)・児玉安正(弘前大理工) 亜熱帯
中部南大西洋での負の SST 偏差と SACZ の活発期
との関係

大気放射

座長：水田 亮 (AESTO/ 気象研)

- A409 真野裕三(気象研) CIP 法による電磁波散乱の計算

大会第4日〔5月24日〕9:30～11:30 一般口頭発表

() は講演者を表す)

C 会場

熱帯大気

座長：向川 均 (京大防災研)

- C401 吉崎正憲(気象研)・那須野智江(フロンティア研究センター) スーパークラウドクラスターの東進のメカニズムについて(1)
- C402 向川均・近本喜光(京大防災研)他3名 熱帯域における季節内振動の予測可能性
- C403 横井寛・里村雄彦(京大院理)他1名 インドシナ半島における降水季節内変動の気候学的特徴
- C404 村田文絵(地球研)・山中大学(FORSGC)他6名 インドネシアにおける対流性降水雲に関する研究(第12報)
- C405 安永数明(IORGC)・山本真之(京大生存研)他4名 赤道大気レーダによる融解層付近の鉛直流変動の観測
- C406 久保田尚之・城岡竜一(IORGC)他13名 西太平洋パラオの Babeldaob 島周辺域の降水特性
- C407 牛山朋来・城岡竜一(IORGC)他13名 パラオ周辺域における冬季と夏季の対流システムの特徴
- C408 勝俣昌己・藤田実季子(IORGC)他2名 衛星及び地上観測データに基づく中部赤道インド洋の降水特性
- C409 V. Geethalakshmi (Tamil Nadu Agrl. University, India)・Akiyo Yatagai (Research Institute for Humanity and Nature) 他2名 Impact of the Indian Ocean Dipole and ENSO on the Northeast Monsoon Rainfall of Tamil Nadu State in India
- C410 山田由貴子・高橋芳幸(北大院理)他4名 大気大循環モデルで表現される赤道域降水活動の循環構造解析 -- 背景風移流と赤道波に着目して --
- C411 伊賀晋一・三浦裕亮(FRCGC)他4名 NICAM による地形の入った条件下での全球雲解像実験

D 会場

大気力学 II

座長：北村祐二 (京大院理)

- D401 森川靖太(北大院理)・石渡正樹(北大院地球環境)他3名 RDoc を用いた数値モデルのドキュメント生成
- D402 北村祐二・石岡圭一(京大院理) 球面浅水系における赤道ジェットの加速メカニズム
- D403 松島和宏(東海大地球環境)・牛込業穂子(東海大教養)他2名 傾圧性と惑星ベータ効果を併せ持つ室内実験の開発
- D404 山本勝(九大応力研)・高橋正明(東大気候システム) スーパーローテーションにおける自転傾斜角の影響
- D405 山下陽介・高橋正明(東大気候システム) 火星大気の北極振動とそれに関する波の活動及び外部強制力～地球大気の北極振動と比較して～
- D406 高橋芳幸・林祥介(北大院理)他2名 火星大気大循環モデルで表現される中小規模擾乱の構造
- D407 小郷原一智・里村雄彦(京大院理) 火星におけるダストの南北方向への拡大に対するヘラス盆地の効果
- D408 小高正嗣・北守太一(北大院理)他3名 大気主成分の凝結を考慮した火星大気対流モデルの開発
- D409 古川祐貴・新野宏(東大海洋研) 水平シア流と熱対流の相互作用に関する研究
- D410 渡辺高宏(東海大理)・三村和男(東海大教養) 鉛直設置型閉ループ内熱対流シミュレーション～乱流とカオス～
- D411 有井卓(東海大院理)・三村和男(東海大教養) 鉛直設置型閉ループ内熱対流における主流のカオスの振る舞い ～理論値と実験値の比較～
- D412 檜尾守昭(気象大) 条件付き対称不安定の内在的な不安定化要因

大会第4日〔5月24日〕11:30～12:30 ポスターセッション

() は講演者を表す)

- P401 松枝秀和(気象研)・町田敏暢(環境研)他7名 定期航空機によるフラスコサンプリングで観測される二酸化炭素濃度の変動
- P402 石島健太郎(FRCGC)・近藤裕昭(産総研)他5名 冷温帯落葉広葉樹林におけるラドン Flux 及び土壌中ガス拡散係数
- P403 三浦和彦・湯浅大樹(東京理科大)他7名 海面付近のエアロゾルの鉛直分布
- P404 林政彦(福岡大理)他6名 東アジアの春季の海洋混合層における鉱物-海塩混合粒子形成 - 無人航空機による鉛直分布観測 -
- P405 五十嵐康人(気象研・地球化学)・高橋宙(気象研・環境・応用)他5名 富士山山麓でのサルフェート粒子観測の試み
- P406 北和之・佐藤亮(茨城大理)他2名 東関東(茨城県)における地表オゾンの増加とその要因
- P407 山地一代(FRCGC)・大原利真(FRCGC/環境研)他4名 東アジアにおける対流圏オゾン濃度の将来予測
- P408 松浦真人・長浜智生(名大STE研)他6名 陸別ミリ波放射計で観測された成層圏オゾンの短期変動解析
- P409 佐伯浩介(東北大院環境)・中島英彰(環境研)他2名 ILAS-II 観測による 2003 年冬季南極成層圏脱窒メカニズムの解析 (2)
- P410 小司慎教・瀬古弘(気象研) GPS 掩蔽法: 屈折率プロファイルの MSM との比較検証
- P411 宮川幸治(高層気象台)・中根英昭(環境研)他2名 反転観測から得られるオゾン鉛直分布とゾンデ及びライダーとの相互比較
- P412 飯田泰久・岡本謙一(大阪府大院工)他2名 仮想的な軌道と現実的な軌道を用いた場合の降雨観測のサンプリングエラーの検討
- P413 高井智明(京大生存研) ラマン・ミーライダーと MU レーダー / 高分解能イメージングとの同時観測
- P414 原由香里・鶴野伊津志(九大応力研)他1名 黄砂の長期変動のモデルシミュレーションと気候因子の解析
- P415 増田一彦(気象研) 海面での反射成分を考慮した赤外射出率
- P416 深堀正志・藤枝鋼(気象研)他1名 CO₂ v₂ 帯の吸収線パラメータの温度依存性
- P417 整隼人・津田敏隆(京大生存研) GPS 掩蔽データを用いた大気重力波のグローバル分布の研究
- P418 伊ヶ崎英雄(気象協会)・伊賀啓太(東大海洋研) AGCM で再現された中間規模東進波の統計解析
- P419 杉本憲彦(名大院工)・石岡圭一(京大院理)他1名 f 平面浅水系におけるジェットの不安定性に見られるバランス領域
- P420 江口菜穂(環境研)・小寺邦彦(気象研) 熱帯の絹雲分布に見る 2002 年南半球成層圏突然昇温の影響
- P421 石郷岡康史・桑形恒男(農環研)他3名 20 世紀の気候変動に伴う農業水需給関係の時空間変動特性
- P422 西憲敏(京大院理)・山本真之(京大生存研)他4名 赤道大気レーダーによる熱帯域高層雲・巻雲系の鉛直流観測
- P423 堀川真由美・金森大成(名大院環境)他3名 海洋大陸での降水安定同位体比にみられた季節内変動
- P424 渡来靖(筑波大陸域環境)・田中博(筑波大計算科学) 順圧運動エネルギー収支からみたブロッキング・非ブロッキングの違い
- P425 八木晃司・木津昭一(東北大院理)他1名 日本の夏季地上気温場の卓越成分とオホーツク海高気圧との関係
- P426 徐健責(FRCGC) ポテンシャル蒸発量から灌漑農地の蒸発散量の推定について
- P427 上米良秀行・陸旻皎(長岡技科大) 半乾燥草原域に適用できる単純な地表面水収支モデル
- P428 村山利幸・川原洋志(海洋大工)他 船舶に搭載したシーロメーターによる海上混合層高度と低層雲高度の連続観測
- P429 近藤裕昭・三枝信子(産総研)他4名 飛騨高山サイトの風環境(展覧期前を中心に)
- P430 石田祐宣(弘前大理工)・安田延壽(東北大院理) 乱流運動エネルギー方程式の圧力変動項のふるまい
- P431 重田祥範・大橋唯太(岡山理大院総合情報)他2名 海陸風による熱・水蒸気の水平移流 - 自動車による岡山市の広域観測 -
- P432 栗田進(気象研)・神田学(東工大院理工) 局在する都市の大気境界層に関する風洞実験と LES モデルの比較実験
- P433 Mohammad Kholid Ridwan・河合透(東工大院総理工)他1名 INTRODUCING BUILDING ARCHITECTURAL ASPECTS IN THE SIMPLE URBAN CANOPY MODEL
- P434 田中博春・三上岳彦(首都大都市環境) 汐留地区のビル群が海風の風下地域に及ぼす影響評価 - 周辺ビル屋上高度での観測結果から -
- P435 斎藤恭央(防衛大地球海洋)他2名 積雪が都市と郊外の気候に与える影響
- P436 足立恭将・鬼頭昭雄(気象研)他3名 シベリア針葉樹林のツンドラ化に対する気候モデルの応答実験
- P437 遠藤洋和(仙台管区気象台)・原田やよい(気象庁気候情報) 冬期の MJO と循環場・日本の天候の関係
- P438 安中さやか・花輪公雄(東北大院理) 日本の夏季気温場の経年変動と大気循環場
- P439 伊藤明・前田修平(気象庁気候情報) 大西洋のブロッキングの衰弱とアジアジェット沿いのロスビー波列
- P440 荻野慎也(JAMSTEC)・立花義裕(JAMSTEC/東海大院地球環境)他4名 2004～2005年冬のベトナム・ハノイにおける対流圏下層の逆転層

- P441 二宮洗三(FRCGC) 日本海上の気団変質：大気気候モデルと観測の比較
- P442 平野淳平(首都大院)・三上岳彦(首都大都市環境) 天気分布型から推定した19世紀の冬季における気温変動
- P443 山岸孝輝(東大気候システム)・阿部彩子(東大気候システム、FRCGC) 大気海洋結合モデルを用いた最終氷期開始時氷床成長における海洋の影響の考察
- P444 Pang Xiaomei・中村洋一(日工大)他2名 気象衛星画像を用いたアジア・オセアニア地域における降水量の研究
- P445 上口賢治(気象研)他 L-moment法を用いた全球20kmモデルの年最大日降水量の検証について
- P446 大竹潤(北大院地球環境)・川村隆一(富山大理) 地球温暖化による北極振動の変調
- P447 関隆則(気象予報士会)・上條賢一(東洋大院生命科学) 500hPa等圧面高度変化のフラクタル性とその季節性
- P448 沢田雅洋・岩崎俊樹(東北大院理)他1名 氷相過程が台風の発達・構造に及ぼす影響について
- P449 釜堀弘隆・山崎信雄(気象研)他1名 北西太平洋における台風強度の変動について――気象庁ベストトラックとJTWCベストトラックの比較――
- P450 中野満寿男・中島健介(九大院理) 層状降水の蒸発に伴う冷却による渦生成
- P451 北嶋尚子(気象研) 台風0514の構造に対する環境場の影響
- P452 佐々浩司(高知大理)・山下賢介(高知大院理)他1名 模擬されたメソサイクロンに伴う竜巻の速度場
- P453 豊津和宏(筑波大環境科学)・上野健一(筑波大生命環境)他2名 AWS観測網により明らかにされたネパールヒマラヤの局地循環特性
- P454 真木亮・篠田太郎(名大地球水循環)他5名 2004年梅雨期に沖縄周辺で観測された降水セルの特徴に関する統計的な解析
- P455 村田昭彦(気象研) 高解像度モデルにおける積雲対流パラメタリゼーションの必要性
- P456 福田和代・村上裕之(AESTO)他2名 衛星輝度温度を用いた20km格子全球モデルの検証
- P457 若月泰孝(AESTO)・川畑拓矢(気象研)他6名 NHM-4DVARによる梅雨前線帯の降水システムのデータ同化実験
- P458 川畑拓矢・黒田徹(気象研) 4次元変分法を用いたレーダー反射強度データ同化スキームの開発
- P459 橋本明弘(AESTO)・村上正隆(気象研)他6名 不均質核形成による氷晶生成モデルの高度化

大会第4日〔5月24日〕13:30～17:00 専門分科会

()は講演者を表す)

A会場

「雲・エアロゾルの新しい地球環境監視システム」

座長：大野裕一 (NICT)

- 13:30～13:44 A451 中島映至(東大気候システム) 大気粒子研究の重要性と衛星観測
- 13:44～13:58 A452 大野裕一・堀江宏昭(NICT)他1名 航空機搭載雲レーダ SPIDER によるこれまでの観測の概要
- 13:58～14:12 A453 鷹野敏明・秋田健一(千葉大院自然)他15名 「みらい」搭載ミリ波雲レーダによる北極海および太平洋での雲観測
- 14:12～14:26 A454 藤吉康志(北大低温研)・山下和也(北大院・環境科学)他1名 ドップラーライダーを用いた大気と雲の層構造の観測
- 14:26～14:40 A455 杉本伸夫(国立環境研) ライダー手法による雲・エアロゾルの観測
- 14:40～14:54 A456 岡本創・佐藤可織(東北大理)他7名 雲・エアロゾルの微物理量推定アルゴリズムと解析例
- 14:54～15:08 A457 早坂忠裕(地球研)・青木一真(富山大)他2名 エアロゾルの鉛直プロファイルと光学的特性について
- 15:08～15:22 A458 高村民雄(千葉大 CERE)・中島映至(東大気候システム)他4名 SKYNET によるエアロゾル・雲・放射観測網の構築

15:22～15:32 休憩

座長：木村俊義 (JAXA/EORC)

- 15:32～15:46 A459 木村俊義(JAXA/EORC)・熊谷博(NICT)他6名 日欧共同衛星観測ミッション EarthCARE の現状と今後の計画について -Earth Cloud, Aerosol and Radiation Explorer: EarthCARE-
- 15:46～16:00 A460 中島孝(東海大情報デザイン)・日暮明子(環境研)他1名 衛星搭載イメージャによる雲・エアロゾル観測と能動型センサとの複合利用
- 16:00～16:14 A461 佐藤正樹(東大気候システム)・那須野智江(FRCGC)他4名 全球雲解像モデル NICAM と衛星 TRMM PR データの降水特性比較
- 16:14～16:23 A462 鈴木健太郎・中島映至(東大気候システム)他4名 衛星観測とビン法雲モデルを用いた雲微物理過程の研究
- 16:23～16:37 A463 高橋暢宏・井口俊夫(NICT) GPM における降水推定アルゴリズムと衛星搭載雲レーダの利用
- 16:37～16:51 A464 高数縁(東大気候システム) TRMM で観測された降雨/発雷比 (RTR) 全球分布と日変化
- 16:51～17:00 A465 笠井康子・落合啓(NICT)他2名 テラヘルツリモートセンシングによる雲・微量成分の同時観測

大会第4日〔5月24日〕13:30～17:00 専門分科会

(____は講演者を表す)

B会場

「JRA-25 長期再解析が切り開く新しい気候研究」

座長：釜堀弘隆（気象研）

- | | | |
|-------------|------|--|
| 13:30～13:55 | B451 | 大野木和敏(気象庁気候情報)他 JRA-25 長期再解析データの概要 |
| 13:55～14:07 | B452 | 谷田貝亜紀代(総合地球環境学研究所) 雨量計に基づく日降水データセットによる JRA25 の降水変動特性の検証 |
| 14:07～14:19 | B453 | 山崎信雄・高橋清利(気象研)他1名 JRA-25 を用いた夏季東アジア周辺の循環場と降水量の年々変動 |
| 14:19～14:31 | B454 | 高橋清利・山崎信雄(気象研気候)他1名 再解析データ(JRA-25、ERA40、NCEP1/2)における半月及び日降水特性 |
| 14:31～14:43 | B455 | 山田晃平・川村隆一(富山大理) JRA-25 再解析による台風の遠隔強制の評価 |
| 14:43～14:55 | B456 | 初鹿宏壮(電中研) JRA-25 長期再解析プロジェクト - 再解析における台風位置情報の活用 その4 - |
| 14:55～15:07 | B457 | 釜堀弘隆・山崎信雄(気象研)他1名 再解析に表現される台風のコンポジット解析(その3) --- 台風場の降水量・非断熱加熱量の全球場への寄与 --- |

15:07～15:20 休憩

座長：筒井純一（電中研）

- | | | |
|-------------|------|---|
| 15:20～15:32 | B458 | 筒井純一(電中研) 熱帯大気の大気熱力学的構造の経年変化に関する再解析データと気候モデル実験の比較 |
| 15:32～15:44 | B459 | 小坂洋介・中村尚(東大院理) JRA-25 および NCEP-DOE 再解析データに見られる PJ パターン |
| 15:44～15:56 | B460 | 濱田尚・岩崎俊樹(東北大理) JRA25 再解析データの子午面循環の検証 |
| 15:56～16:08 | B461 | 寺崎康晃(筑波大院生命環境)・田中博(筑波大計算科学) 鉛直構造方程式の理論解を用いた大気大循環の3次元エネルギースペクトルの解析 |
| 16:08～16:20 | B462 | 佐藤芳昭(気象庁数値予報) 変分法バイアス補正システム |
| 16:20～16:32 | B463 | 三好建正(気象庁数値予報)・山根省三(千葉科学大/FRCGC) 局所アンサンブル変換カルマンフィルタが提案する次世代の再解析プロダクト |

16:32～17:00 総合討論

※ 講演時間は B451 のみ 25 分 (1 鈴：15 分；2 鈴：20 分；3 鈴：25 分)、他は 12 分 (1 鈴：7 分；2 鈴：10 分；3 鈴：12 分)

講演者索引

<A>

Abe-ouchi Ayako (阿部彩子) A309
 Abo Makoto (阿保真) P323
 Adachi Masaki (安達正樹) P112
 Adachi Yukimasa (足立恭将) P436
 Aihara Fumi (相原史) P140
 Aiki Hidenori (相木秀則) D311
 Akimoto Hajime (秋元肇) B252
 Akiyoshi Hideharu (秋吉英治) B108
 Amemura Naoki (館村尚起) P314
 Annamalalai H. A253
 Aoki Teruo (青木輝夫) P225
 Aonashi Kazumasa (青梨和正) D306
 Aonashi Kazumasa (青梨和正) P108
 Arakawa Osamu (荒川理) A405
 Arao Kimio (荒生公雄) P303
 Arii Suguru (有井卓) D411
 Asada Hiroyuki (浅田浩之) C308
 Asuma Yoshio (遊馬芳雄) D208

Behera Swadhin A251
 Bessho Kotaro (別所康太郎) C305

<C>

Chen Xianyan A303
 Chiba Masaru (千葉長) B105
 Chubachi Shigeru (忠鉢繁) P307

<D>

Dairaku Koji (大楽浩司) P139
 Deushi Makoto (出牛真) B109

<E>

Eguchi Nawo (江口菜穂) P344
 Eguchi Nawo (江口菜穂) P420
 Eito Hisaki (永戸久喜) C201
 Endo Hirokazu (遠藤洋和) P437
 Endo Satoshi (遠藤智史) C254
 Enomoto Takeshi (榎本剛) P209

<F>

Fudeyasu Hironori (筆保弘徳) P250
 Fujibe Fumiaki (藤部文昭) A103
 Fujibe Fumiaki (藤部文昭) A105
 Fujinami Hatsuki (藤波初木) P341
 Fujita Reiko (藤田玲子) P345
 Fujiwara Chusei (藤原忠誠) P130
 Fujiyoshi Yasushi (藤吉康志) A454
 Fujiyoshi Yasushi (藤吉康志) P111
 Fukabori Masashi (深堀正志) P416
 Fukao Kazuhito (深尾一仁) P155
 Fukuda Kazuyo (福田和代) P456
 Fukuda Satoru (福田悟) B211
 Fukuhara Hiroyuki (福原弘之) P251

Fukushima Azusa (福島あずさ) P339
 Furukawa Yuki (古川祐貴) D409
 Furumoto Jun-ichi (古本淳一) D202
 Furumoto Jun-ichi (古本淳一) P121

<G>

Goto Daisuke (五藤大輔) P343

<H>

Haga Yasuyuki (羽賀泰之) A106
 Haginoya Shigenori (萩野谷成徳) P244
 Hagiya Satoshi (萩谷聡) P101
 Hamada Hisashi (濱田尚) B460
 Hanafusa Mizuki (花房瑞樹) C302
 Hara Hiroshi (原宏) B201
 Hara Masayuki (原政之) P154
 Hara Yukari (原由香里) P414
 Hasegawa Takuya (長谷川拓也) P120
 Hashiguchi Hiroyuki (橋口浩之) P237
 Hashiguchi Noriko (橋口典子) P122
 Hashimoto Akihiro (橋本明弘) A408
 Hashimoto Akihiro (橋本明弘) P459
 Hashimoto Noritoshi (橋本識充) P218
 Hashizume Hiroshi (橋爪寛) P109
 Hatamura Shinichi (畑村真一) P329
 Hatsushika Hiroaki (初鹿宏社) B456
 Hattori Tomonori (服部友則) A204
 Hayasaka Tadahiro (早坂忠裕) A457
 Hayashi Masahiko (林政彦) P404
 Hayashi Syugo (林修吾) C203
 Hei Hayato (幣隼人) P417
 Higashi Hitomi (東ひとみ) P304
 Hinokio Moriaki (檜尾守昭) D412
 Hiramatsu Kazuhiko (平松和彦) P159
 Hirano Junpei (平野淳平) P442
 Hirooka Satoshi (廣岡智) P247
 Hirose Masafumi (広瀬正史) P310
 Hirose Naoki (広瀬直毅) B405
 Hirose Nozomu (広瀬望) P123
 Honda Meiji (本田明治) P240
 Honda Yuki (本田有機) D305
 Hori Masatake (堀正岳) P145
 Horie Hiroaki (堀江宏昭) C207
 Horikawa Mayumi (堀川真由美) P423
 Hotta Daisuke (堀田大介) P124

<I>

Ichikawa Hiroki (市川裕樹) P254
 Ichinari Takashi (市成隆) B406
 Iga Shin-ichi (伊賀晋一) C411
 Igarashi Hiromichi (五十嵐弘道) P302
 Igarashi Yasuhito (五十嵐康人) P405
 Iguchi Takamichi (井口享道) P358
 Iida Yasuhisa (飯田泰久) P412
 Iizawa Isao (飯澤功) B304

Ikazaki Hideo (伊ヶ崎英雄) P418
 Ikeda Kohei (池田恒平) P318
 Inagaki Atsushi (稲垣厚至) P132
 Inoue Daisuke (井上大輔) P246
 Inoue Toshiro (井上豊志郎) P255
 Ishida Sachinobu (石田祐宣) P430
 Ishigooka Yasushi (石郷岡康史) P421
 Ishijima Kentaro (石島健太郎) P402
 Ishikawa Yoshihiro (石川宜広) D309
 Ishimoto Hiroshi (石元裕史) P315
 Ishizuka Masahide (石塚正秀) P328
 Itano Toshihisa (板野稔久) P215
 Itou Akira (伊藤明) P439
 Ito Kazuki (伊藤和貴) D105
 Iwanaga Hiroyuki (岩永博之) P152
 Iwao Koki (岩尾航希) A201
 Iwasaki Sugunori (岩崎杉紀) P258

<K>

Kai Kenji (甲斐憲次) B204
 Kai Kohei (甲斐浩平) A260
 Kajiwara Yusuke (梶原佑介) P253
 Kamahori Hirotaka (釜堀弘隆) B457
 Kamahori Hirotaka (釜堀弘隆) P449
 Kamiguchi Kenji (上口賢治) A404
 Kamiguchi Kenji (上口賢治) P445
 Kamimera Hideyuki (上米良秀行) P427
 Kanada Sachie (金田幸恵) A407
 Kaneyasu Naoki (兼保直樹) B208
 Kanno Hiromitsu (菅野洋光) D101
 Karumuri Ashok A203
 Kasai Yasuko (笠井康子) A465
 Kato Kuranoshin (加藤内蔵進) A109
 Kato Teruyuki (加藤輝之) C108
 Kato Teruyuki (加藤輝之) C202
 Katsumata Masaki (勝俣昌己) C408
 Kawabata Takuya (川畑拓矢) P458
 Kawai Toru (河合徹) P331
 Kawamura Ryuichi (川村隆一) B455
 Kawashima Masayuki (川島正行) C204
 Kawashima Shigeto (川島茂人) P241
 Kawate Yasutaka (川手妥孝) P333
 Kazaoka Ryo (風岡亮) B104
 Kikuchi Kazuyoshi (菊地一佳) P210
 Kimura Fujio (木村富士男) B311
 Kimura Toshiyoshi (木村俊義) A459
 Kita Kazuyuki (北和之) P406
 Kitabatake Naoko (北畠尚子) P354
 Kitabatake Naoko (北畠尚子) P451
 Kitamura Yuji (北村祐二) D402
 Kitoh Akio (鬼頭昭雄) A307
 Kobayashi Chiaki (小林ちあき) P338
 Kobayashi Hiroshi (小林拓) B203
 Kobayashi Kazuhiko (小林和彦) B256

- | | | | | | |
|-----------------------------|------|---------------------------|------|---------------------------|------|
| Kodama Yasumasa (児玉安正) | P321 | Miyama Toru (美山透) | A261 | Nishi Hidehiro (西秀紘) | P110 |
| Kodera Kunihiko (小寺邦彦) | P207 | Miyashita Atsushi (宮下敦) | P259 | Nishi Noriyuki (西憲敬) | P422 |
| Kohno Nadao (高野洋雄) | P249 | Miyazaki Chihiro (宮崎千尋) | P336 | Nishizawa Masato (西沢匡人) | P228 |
| Koike Makoto (小池真) | B254 | Miyazaki Shin (宮崎真) | P327 | Nishizawa Tomoaki (西澤智明) | B209 |
| Komori Nobumasa (小守信正) | A262 | Miyazaki Yasuhiko (宮崎保彦) | P148 | Nishizawa Tomoaki (西澤智明) | D201 |
| Kondo Fumiyo (近藤文義) | D109 | Miyoshi Takemasa (三好建正) | B463 | Nonaka Masami (野中正見) | A258 |
| Kondo Hiroaki (近藤裕昭) | P429 | Miyoshi Takemasa (三好建正) | D307 | | |
| Kosaka Yosuke (小坂洋介) | B459 | Mizuta Ryo (水田亮) | A401 | <O> | |
| Koshiro Tsuyoshi (神代剛) | P202 | Mizuta Ryo (水田亮) | P221 | O' oishi Ryouta (大石龍太) | A304 |
| Kotani Ayumi (小谷亜由美) | C252 | Mochida Michihiro (持田陸宏) | B202 | Obata Atsushi (小畑淳) | A305 |
| Koyama Hiroshi (小山博司) | P156 | Mochizuki Takashi (望月崇) | A263 | Oda Ryoko (小田僚子) | B403 |
| Kuboike Daisuke (久保池大輔) | A104 | Mori Atsushi (森厚) | P359 | Oda Tomohiro (小田知宏) | B103 |
| Kubota Hisayuki (久保田尚之) | C406 | Mori Mariko (森真理子) | P158 | Odaka Masatsugu (小高正嗣) | D408 |
| Kubota Takuji (久保田拓志) | D203 | Mori Masato (森正人) | A207 | Ogawa Hiroko (小川弘子) | B302 |
| Kudo Rei (工藤玲) | P230 | Mori Takeshi (森岳史) | P141 | Ogawa Yuka (小川由佳) | P252 |
| Kuji Makoto (久慈誠) | B210 | Mori Yoshinori (盛宣誠) | A108 | Ogino Shin-ya (荻野慎也) | P440 |
| Kunii Masaru (國井勝) | D302 | Morikawa Yasuhiro (森川靖大) | D401 | Ogohara Kazunori (小郷原一智) | D407 |
| Kunii Masaru (國井勝) | D303 | Moriwaki Ryo (森脇亮) | C255 | Oh' izumi Mitsuo (大泉三津夫) | B404 |
| Kurihara Yoshio (栗原宜夫) | C303 | Moteki Nobuhiro (茂木信宏) | B206 | Ohba Masamichi (大庭雅道) | P206 |
| Kurita Susumu (栗田進) | P432 | Moteki Qoosaku (茂木耕作) | C102 | Ohno Yuichi (大野裕一) | A452 |
| Kuroda Yuhji (黒田友二) | A208 | Motoya Ken (本谷研) | P136 | Ohtake Jun (大竹潤) | P446 |
| Kurosaki Yasunori (黒崎泰典) | P243 | Mukano Tomohiko (向野智彦) | P239 | Okada Kikuo (岡田菊夫) | B205 |
| Kusunoki Kenichi (楠研一) | C310 | Mukougawa Hitoshi (向川均) | C402 | Okamoto Hajime (岡本創) | A456 |
| Kusunoki Kenichi (楠研一) | C311 | Mukougawa Hitoshi (向川均) | D207 | Okuda Tomohiro (奥田智洋) | P352 |
| Kusunoki Shoji (楠昌司) | A402 | Murakami Masataka (村上正隆) | B258 | Ono Kousaku (小野耕作) | P313 |
| | | Murakami Shigenori (村上茂教) | A308 | Onogi Kazutoshi (大野木和敏) | B451 |
| <L> | | Murakami Shin' ya (村上真也) | P117 | Oohashi Yukitaka (大橋唯太) | D103 |
| Lestari Rosbintarti Kartika | P205 | Murata Akihiko (村田昭彦) | P455 | Oshima Kazuhiro (大島和裕) | P135 |
| Luo Jing-jia | A252 | Murata Fumie (村田文絵) | C404 | Otsuka Kiyotoshi (大塚清敏) | B308 |
| | | Murata Fumie (村田文絵) | P236 | | |
| <M> | | Murayama Shohei (村山昌平) | P217 | <P> | |
| Mabuchi Kazuo (馬淵和雄) | A306 | Murayama Toshiyuki (村山利幸) | P428 | Pang Xiaomei | P444 |
| Machida Toshinobu (町田敏暢) | B102 | Muroi Chiashi (室井ちあし) | A406 | | |
| Maejima Yasumitsu (前島康光) | D310 | Murosaki Masafumi (室崎将史) | P222 | <Q> | |
| Maki Ryo (真木亮) | P454 | | | Qin Huiling | A255 |
| Maki Takashi (真木貴史) | P216 | <N> | | | |
| Mano Yuzo (真野裕三) | A409 | Nagata Rena (永田玲奈) | P347 | <R> | |
| Mase Hirofumi (間瀬博文) | D312 | Nagumo Nobuhiro (南雲信宏) | P157 | Raasch Siegfried | C256 |
| Mashiko Wataru (益子渉) | P355 | Nakaegawa Tosiyo (仲江川敏之) | P144 | Ridwan Mohammad Kholid | P433 |
| Masuda Kazuhiko (増田一彦) | P415 | Nakai Taro (中井太郎) | P330 | | |
| Masuda Seiji (益田精治) | C105 | Nakajima Hideaki (中島英彰) | P409 | <S> | |
| Masui Toshihiko (増井利彦) | B251 | Nakajima Takashi (中島孝) | A460 | Saito Fuyuki (齋藤冬樹) | A312 |
| Matsueda Hidekazu (松枝秀和) | P401 | Nakajima Teruyuki (中島映至) | A451 | Saito Kazuo (斎藤和雄) | D301 |
| Matsueda Mio (松枝未遠) | D308 | Nakamura Takuji (中村卓司) | P226 | Saitoh Naoko (齋藤尚子) | P224 |
| Matsugatani Atsushi (松ヶ谷篤史) | P319 | Nakamura Tetsu (中村哲) | P208 | Saitoh Taku (斎藤琢) | B402 |
| Matsushima Dai (松島大) | C251 | Nakano Masuo (中野満寿男) | P450 | Saitoh Yasuo (斎藤恭央) | P435 |
| Matsushima Kazuhiro (松島和宏) | D403 | Nakata Junko (中田淳子) | P242 | Saitou Shuhei (斎藤修平) | P245 |
| Matsuura Makoto (松浦真人) | P408 | Nakata Toshimi (仲田季寧) | P107 | Sakai Akiko (坂井亜紀子) | D210 |
| Mega Tomoaki (妻鹿友昭) | D206 | Nakazato Masahisa (中里真久) | C309 | Sakai Daisaku (坂井大作) | A205 |
| Meguro Ai (目黒亜衣) | P104 | Nakazato Masahisa (中里真久) | D102 | Sakai Satoshi (酒井敏) | B305 |
| Michimoto Koichiro (道本光一郎) | P116 | Nakazawa Tetsuo (中澤哲夫) | A102 | Sakakibara Yasushi (榊原保志) | P335 |
| Minobe Shoshiro (見延庄士郎) | A259 | Naoe Hiroaki (直江寛明) | B107 | Sakamaki Hiroshi (酒巻洋) | P227 |
| Minobe Shoshiro (見延庄士郎) | P203 | Napoleon - | P312 | Sakami Tomonori (坂見智法) | P234 |
| Miura Hiroaki (三浦裕亮) | C306 | Nii Tomomi (新居知巳) | P137 | Sakamoto Kei (坂本圭) | C107 |
| Miura Kazuhiko (三浦和彦) | P403 | Niisoe Tamon (新添多聞) | B106 | Sakamoto Kei (坂本圭) | P353 |
| Miyagawa Koji (宮川幸治) | P411 | Ninomiya Kozo (二宮洗三) | P441 | Sasaki Yoshiaki (佐々木佳明) | P350 |
| | | | | Sato Hitoshi (佐藤均) | P138 |

- Sato Kaoru (佐藤薫) D209
 Sato Mari (佐藤茉莉) P349
 Sato Masahito (佐藤真仁) P316
 Sato Naoki (佐藤尚毅) B408
 Sato Tomonori (佐藤友徳) C205
 Sato Tomonori (佐藤友徳) P340
 Sato Yoshiaki (佐藤芳昭) B462
 Satoh Masaki (佐藤正樹) A461
 Satoh Shinsuke (佐藤晋介) C307
 Sawa Yousuke (澤庸介) P301
 Sawada Masahiro (沢田雅洋) P448
 Schneider Niklas A257
 Seiki Ayako (清水亜矢子) A256
 Seki Takanori (関隆則) P332
 Seki Takanori (関隆則) P447
 Sekizawa Shinya (関澤信也) P311
 Seko Hiromu (瀬古弘) P147
 Seko Hiromu (瀬古弘) P309
 Shen Lily (沈麗麗) P103
 Shiba Sadataka (芝定孝) D108
 Shibata Kiyotaka (柴田清孝) D211
 Shigeta Yoshinori (重田祥範) P431
 Shima Shin-ichiro (島伸一郎) C208
 Shinoda Taro (篠田太郎) P125
 Shinohara Mizuki (篠原瑞生) P248
 Shiraishi Koichi (白石浩一) P220
 Shoji Yoshinori (小司禎教) D304
 Shoji Yoshinori (小司禎教) P410
 Shusse Yukari (出世ゆかり) P351
 Sokei Ryohei (祖慶良平) P151
 Sudo Kengo (須藤健悟) P143
 Sugawara Hirofumi (菅原広史) P334
 Sugimoto Nobuo (杉本伸夫) A455
 Sugimoto Norihiko (杉本憲彦) P419
 Sugimoto Tomoyo (杉本朋生) P106
 Sugiyama Ko-ichiro (杉山耕一朗) P118
 Suryachandra Rao Anguluri A202
 Suzuki Hiroto (鈴木博人) P337
 Suzuki Ippo (鈴木一歩) P233
 Suzuki Kentaroh (鈴木健太郎) A462
 Suzuki Shin-ichi (鈴木真一) P325
 Suzuki Tomoyuki (鈴木智幸) P231
 Suzuki Yoshihito (鈴木由人) C206
- <T>
 Takada Naoki (高田直樹) B301
 Takagaki Goro (高垣吾朗) P204
 Takahashi Hiroshi (高橋宙) P305
 Takahashi Kiyotoshi (高橋清利) B454
 Takahashi Nobuhiro (高橋暢宏) A463
 Takahashi Nobuhiro (高橋暢宏) P119
 Takahashi Yoshiyuki (高橋芳幸) D406
 Takahasi Naoya (高橋直也) P133
 Takai Tomoaki (高井智明) P413
 Takamura Tamio (高村民雄) A458
 Takano Toshiaki (鷹野敏明) A453
- Takashima Hisahiro (高島久洋) P320
 Takaya Yoshimasa (高谷美正) P256
 Takayabu Yukari (高薮縁) A464
 Takegawa Nobuyuki (竹川暢之) B253
 Takei Yasuyuki (武井泰之) B307
 Takemi Tetsuya (竹見哲也) B303
 Takemi Tetsuya (竹見哲也) B310
 Takemura Toshihiko (竹村俊彦) B257
 Takigawa Masayuki (滝川雅之) P113
 Tanaka Hiroharu (田中博春) P434
 Tanaka Hiroki (田中広樹) C253
 Tanaka Hiroshi (田中博) A206
 Tanaka Hiroshi (田中博) B309
 Tanaka Kenji (田中健路) P128
 Tanaka Minoru (田中実) P146
 Tanaka Taichu (田中泰宙) P229
 Tanaka Tomoaki (田中智章) P115
 Tanikawa Tomonori (谷川朋範) P114
 Tanimoto Hiroshi (谷本浩志) B255
 Terasaki Koji (寺崎康児) B461
 Toda Motomu (戸田求) P326
 Tokinaga Hiroki (時長宏樹) P213
 Tomikawa Yoshihiro (冨川喜弘) P317
 Tomita Tomohiko (冨田智彦) P211
 Tsubota Yukimasa (坪田幸政) C109
 Tsukamoto Osamu (塚本修) P214
 Tsunematsu Nobumitsu (常松展充) D106
 Tsunematsu Nobumitsu (常松展充) D107
 Tsuruta Haruo (鶴田治雄) B207
 Tsutsui Junichi (筒井純一) B458
- <U>
 Ueda Hiroaki (植田宏昭) A254
 Ueda Sayako (上田紗也子) P102
 Ueno Kenichi (上野健一) P127
 Ueno Kenichi (上野健一) P453
 Ueno Mitsuru (上野充) C304
 Umetani Kazuhiro (梅谷和弘) P232
 Umezawa Taku (梅澤拓) B101
 Ushiyama Tomoki (牛山朋来) C407
- <V>
 Vellingiri Geethalakshmi C409
- <W>
 Wada Akiyoshi (和田章義) P149
 Wada Akiyoshi (和田章義) P357
 Wakazuki Yasutaka (若月泰孝) P457
 Wakimizu Kenji (脇水健次) P257
 Watanabe Akira (渡邊明) P153
 Watanabe Koichi (渡辺幸一) P306
 Watanabe Masahiro (渡部雅浩) A302
 Watanabe Takahiro (渡辺高宏) D410
 Watanabe Tsutomu (渡辺力) P126
 Watarai Yasushi (渡来靖) P424
- <X>
 Xie Shang-ping (謝尚平) P212
 Xu Jianqing (徐健青) P426
- <Y>
 Yagai Isamu (谷貝勇) A101
 Yagi Koji (八木晃司) P425
 Yajima Arata (矢島新) B306
 Yamada Hiroyuki (山田広幸) C101
 Yamada Yoshinori (山田芳則) D204
 Yamada Youhei (山田洋平) P150
 Yamada Yukiko (山田由貴子) C410
 Yamagishi Takateru (山岸孝輝) A311
 Yamagishi Takateru (山岸孝輝) P443
 Yamaji Kazuyo (山地一代) P407
 Yamamoto Masaru (山本勝) D404
 Yamamoto Masayuki (山本真之) P322
 Yamamoto Nami (山本奈美) A107
 Yamamoto Nami (山本奈美) P134
 Yamamoto Yoshika (山本桂香) D104
 Yamanouchi Akiko (山内明子) B407
 Yamasaki Masanori (山崎正紀) C104
 Yamashita Kazuya (山下和也) C257
 Yamashita Yousuke (山下陽介) D405
 Yamasita Kensuke (山下賢介) P452
 Yamazaki Nobuo (山崎信雄) B453
 Yanagino Takeshi (柳野健) D205
 Yanase Wataru (柳瀬亘) A310
 Yanase Wataru (柳瀬亘) P142
 Yasunaga Kazuaki (安永数明) C405
 Yasunaka Sayaka (安中さやか) P438
 Yatagai Akiyo (谷田貝亜紀代) B452
 Yatagai Akiyo (谷田貝亜紀代) P235
 Yohgai Toshiroh (用貝敏郎) C106
 Yokohata Tokuta (横畠徳太) A301
 Yokoi Satoru (横井覚) C403
 Yokoyama Chie (横山千恵) P348
 Yokoyama Naomi (横山直美) P324
 Yoshida Akira (吉田聡) P201
 Yoshida Yasuhiro (吉田保衡) P129
 Yoshida Yukio (吉田幸生) P308
 Yoshikawa Toshifumi (吉川敏文) C301
 Yoshimoto Koichi (吉本浩一) P356
 Yoshimura Jun (吉村純) A403
 Yoshino Jun (吉野純) B401
 Yoshioka Mayumi (吉岡真由美) P238
 Yoshizaki Masanori (吉崎正憲) B312
 Yoshizaki Masanori (吉崎正憲) C401
 Yukimoto Seiji (行本誠史) P346
- <Z>
 Zaiki Masumi (財城真寿美) P342
 Zaizen Yuji (財前祐二) P105
 Zhang Chengzhong C103
 Zhou Libo P223